概要版

米原市民意識調査

【平成27年度報告書】

平成27年10月

米原市

目　　次

１　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（１）調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（２）報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

あなたご自身のことについて、お伺いします。・・・・・・・・・・・・・・・・・４

まちづくり全般についてお伺いします。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

「１．誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち」に関する設問です。・・・・・１５

「２．市民の絆で築く心と体の健康なまち」に関する設問です。・・・・・・・・１７

「３．田舎都市が魅せるいやしのまち」に関する設問です。・・・・・・・・・・２３

「４．災害に強く生活が便利なほっとするまち」に関する設問です。・・・・・・２４

「５．地の利を活かしたにぎわいのまち」に関する設問です。・・・・・・・・・３０

市民主権による都市経営（協働のまちづくり推進）についてお伺いします。・・・３３

次代に引き継ぐための都市経営（行財政改革の推進）についてお伺いします。・・３４

顔の見える都市経営（情報の共有）についてお伺いします。・・・・・・・・・・３６

１　調査の概要

（１）調査概要

【調査の目的】

　米原市のまちづくりや都市経営などについて市民の意見を伺い、市民の市政に対する評価、これからのまちづくりに対するニーズや意識を把握し、市政運営に当たっての基礎的資料を得ることを目的にアンケート調査を実施しました。

【調査の概要】

調査区域　：米原市全域

調査対象　：18歳以上の市民から2,000人を無作為抽出

調査時期　：平成27年6月23日から7月6日まで

配 布 数　：2,000票

回 収 数　：1,108票

回 収 率　：55.4%

※回収率向上の取組として、締切りの１週間前に案内ハガキを送付

（２）報告書の見方

- 集計に当たっては、小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書内の文章、グラフ、表においても反映しています。

- 複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。

- グラフまたは図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていないものまたは回答の判別が著しく困難なものです。

- グラフのN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

- グラフ中の回答割合について、グラフが繁雑になる場合は省略しています。

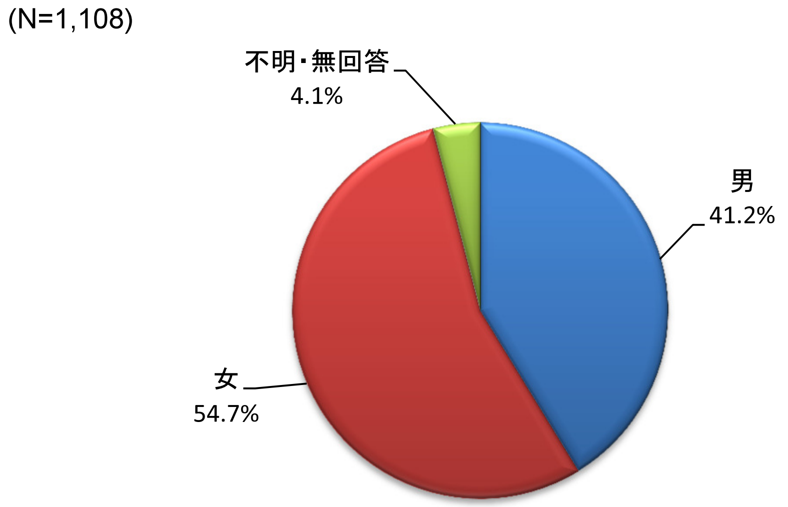
- 本文中の「ポイント」とは、「%」のことを表しています。

２　調査結果

あなたご自身のことについて、お伺いします。

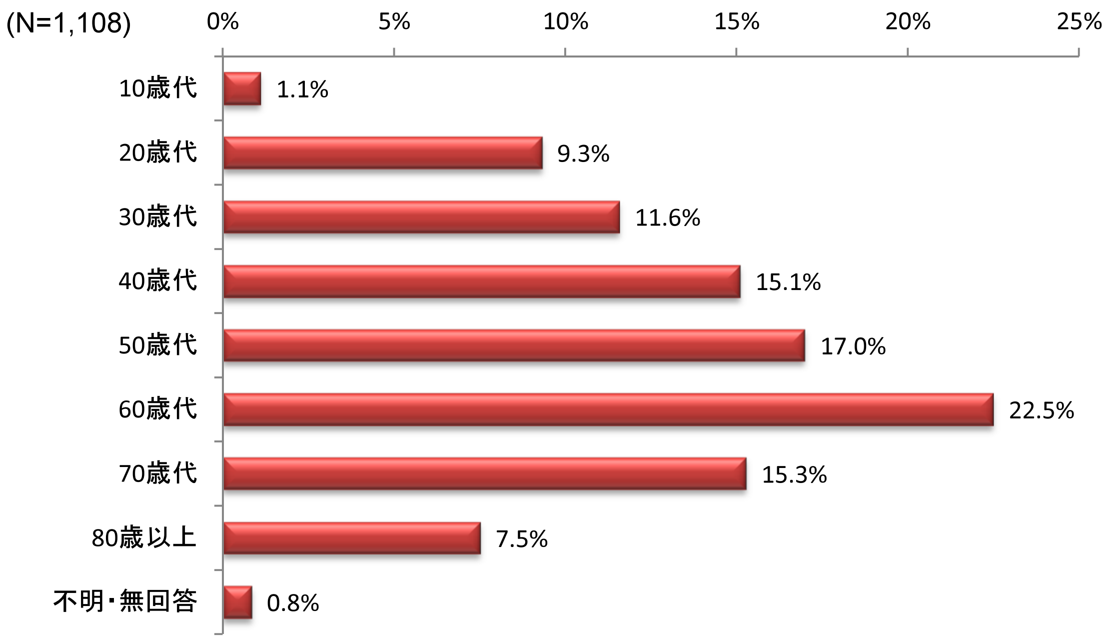
問１　あなたの性別は。＜○は１つ＞

回答者の性別は、「男性」が41.2%、「女性」が54.7%となっています。



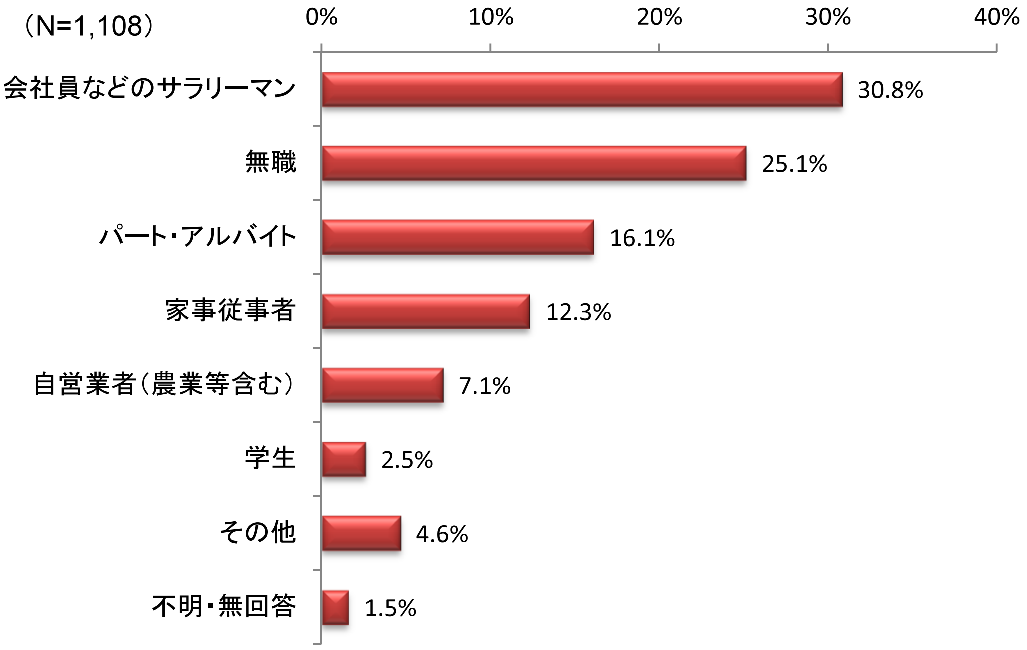
問２　あなたの年齢は。＜○は１つ＞

回答者の年代は、「60歳代」が22.5%と最も高く、次いで「50歳代」が17.0%となっています。



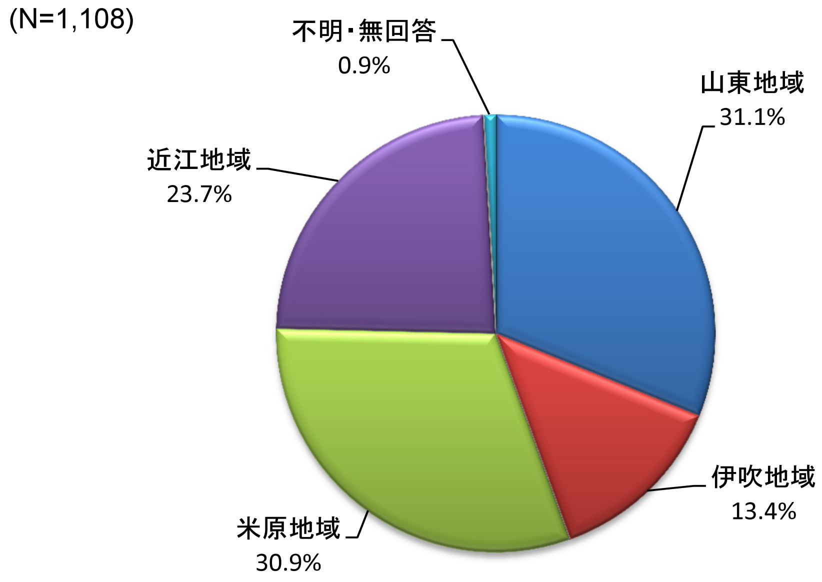
問３　あなたのご職業は何ですか。<〇は１つ>

回答者の職業は、「会社員などのサラリーマン」が30.8％と最も高く、次いで「無職」が25.1％となっています。



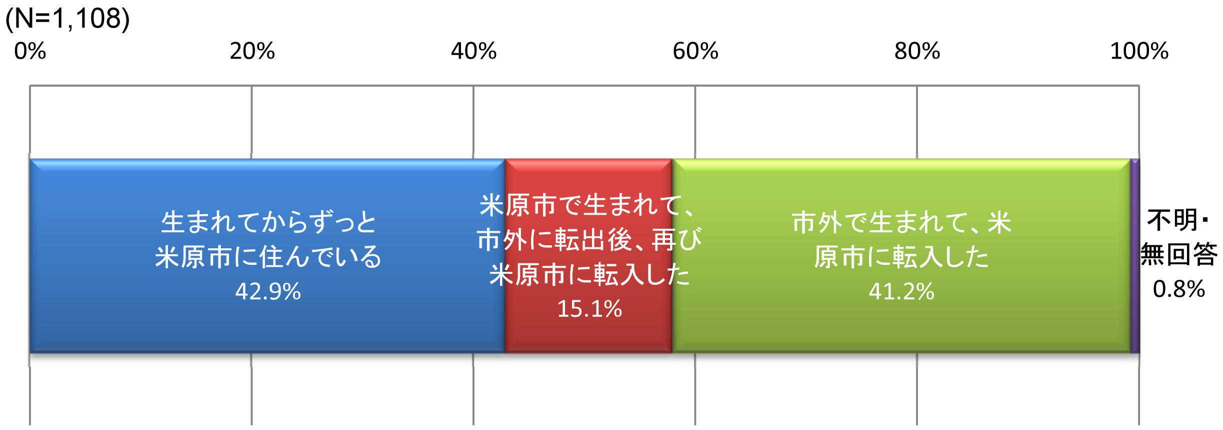
問４　あなたのお住まいはどちらですか。<〇は１つ>

回答者の居住地域は、「山東地域」が31.1％と最も高く、次いで「米原地域」が30.9％となっています。



問５　あなたは、いつから米原市にお住まいですか。<○は１つ>

米原市にいつから住んでいるかについて見てみると、「生まれてからずっと米原市に住んでいる」が42.9％と最も高く、次いで「市外で生まれて米原市に転入した」が41.2％となっています。

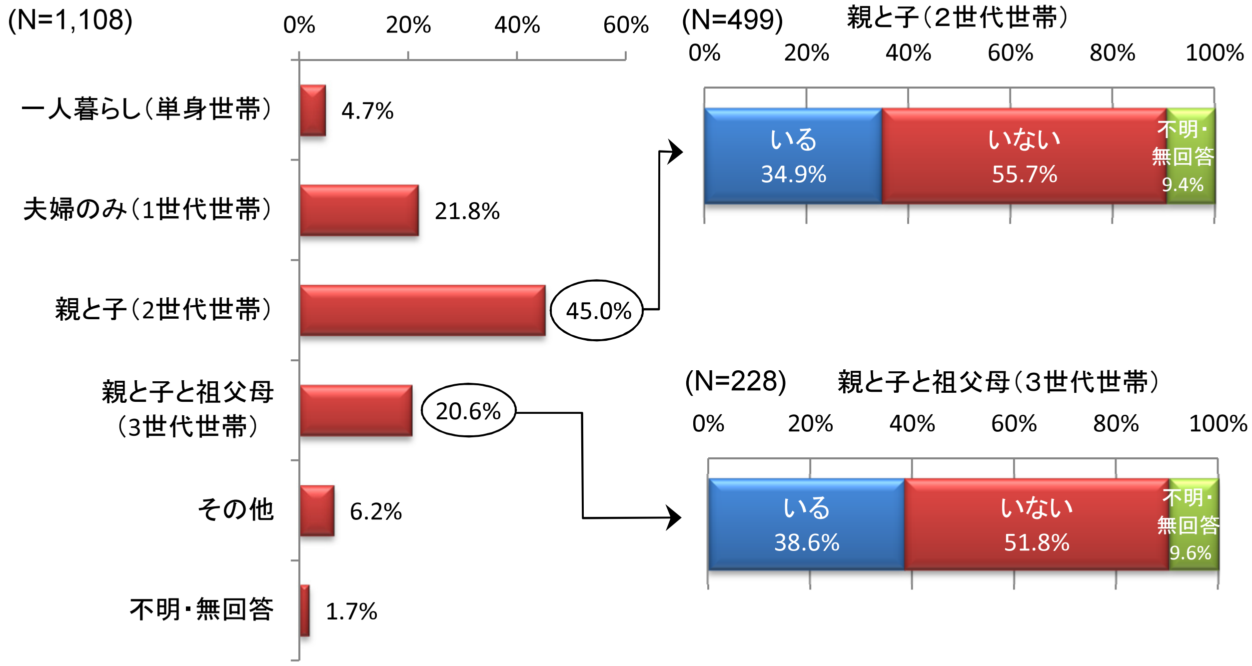


問６　あなたのご家族の構成はどれですか。また、「３」、「４」と答えられた方は15歳以下の子どもが「いる」、「いない」についてもお答えください。<○は１つ>

家族構成については、「親と子（２世代世帯）」が45.0％と最も高く、次いで「親と子と祖父母（３世代世帯）」が20.6％となっています。

家族構成で「親と子（２世代世帯）」と答えた方のうち、15歳以下の子どもについては「いない」が55.7％となっています。また「親と子と祖父母（３世代世帯）」と答えた方のうち、15歳以下の子どもについては「いない」が51.8％となっています。

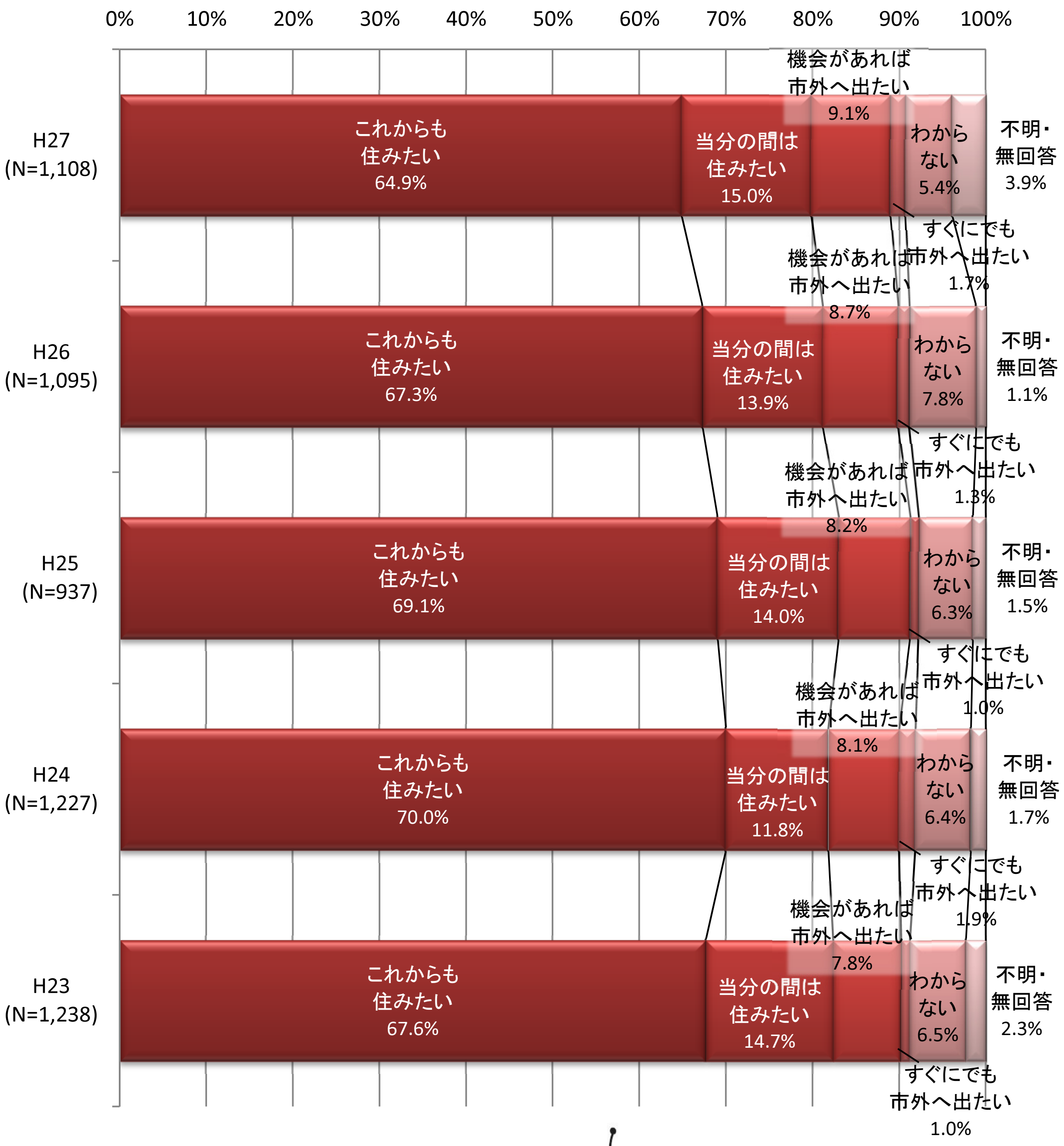
■家族構成　　■15歳以下の子の有無

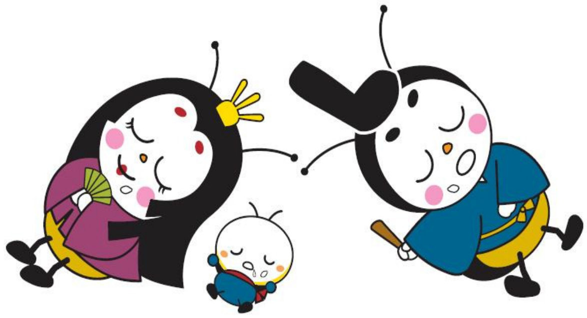


問７　あなたは、これからも米原市に住みたいと思いますか。<○は１つ>

これからも米原市に住みたいと思いますかの設問については、「これからも住みたい」が64.9％と最も高く、次いで「当分の間は住みたい」の15.0％と合わせて約８割の市民が米原市への定住を希望しています。

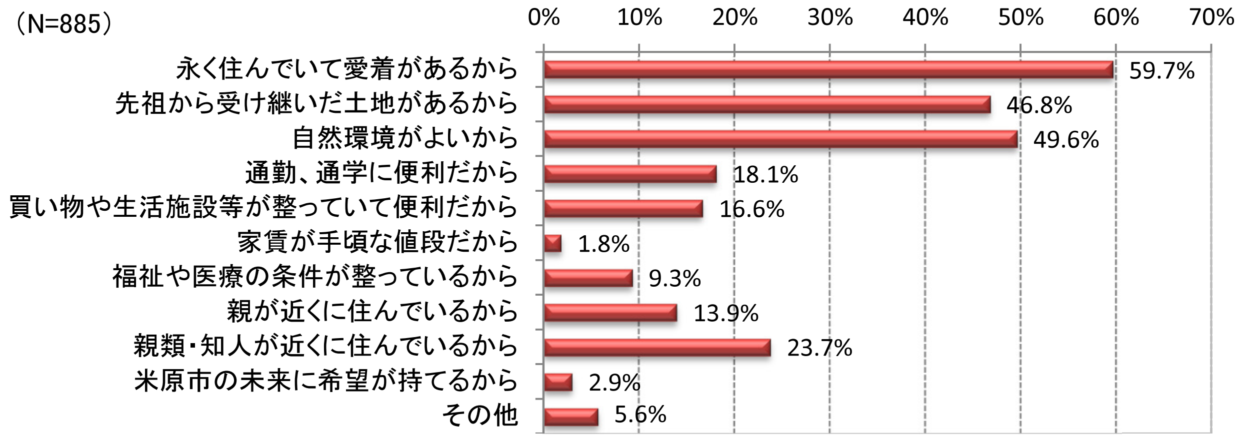
今までに実施した調査と比較したところ、大きな変動は無く、例年約８割の市民が米原市への定住を希望しています。

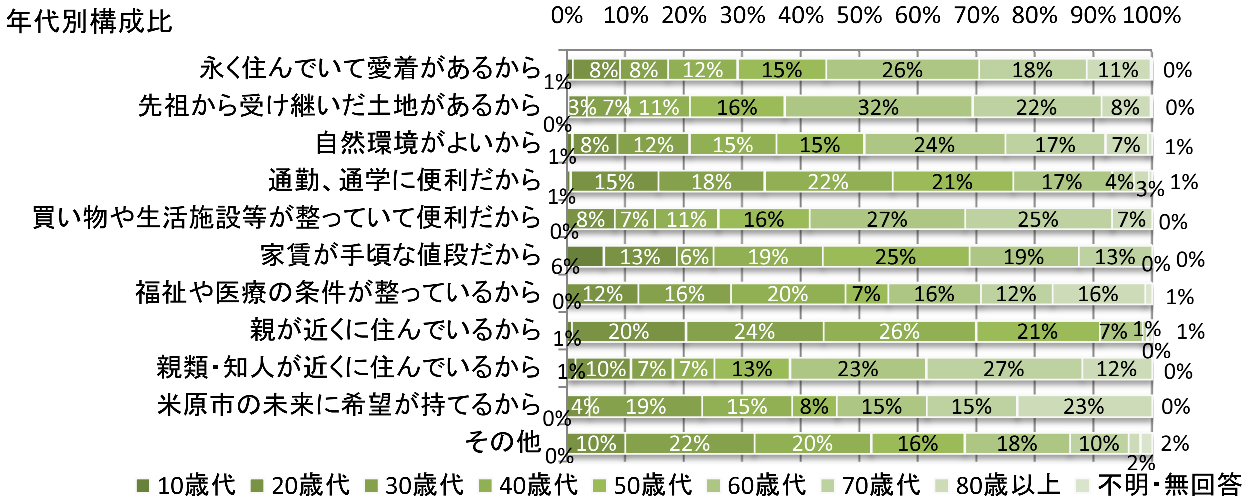


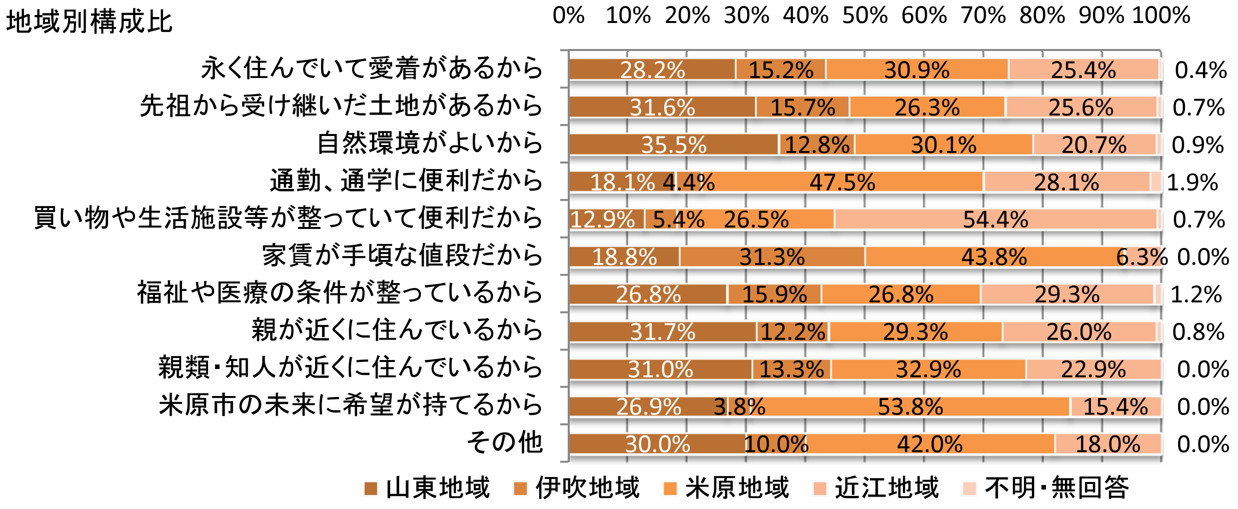


付問１　【問７で「これからも住みたい」、「当分の間は住みたい」と答えられた方】
今後も住みたい理由は何ですか。＜○は４つまで＞

「これからも住みたい」または「当分の間は住みたい」と答えた方の理由について見てみると、本年度調査では「永く住んでいて愛着があるから」が59.7%と最も高く、次いで「自然環境がよいから」が49.6%となっています。また、「その他」の具体的な理由としては、「家を建てたから」、「交通の便がよい」、「子育てしやすい」などの理由が挙がっていました。年代別でみると、高齢なほど土地や人への愛着が強く、若いほど合理的な理由が強いことが分かります。地域別では、概ね回答者の構成比（問４）と符合しているものの、「通勤、通学に便利だから」では米原地域が、「買い物や生活施設等が整っていて便利だから」では近江地域が、それぞれ多いようです。「家賃が手頃な値段だから」については回答の絶対数が少ないものの米原地域に多いようです。

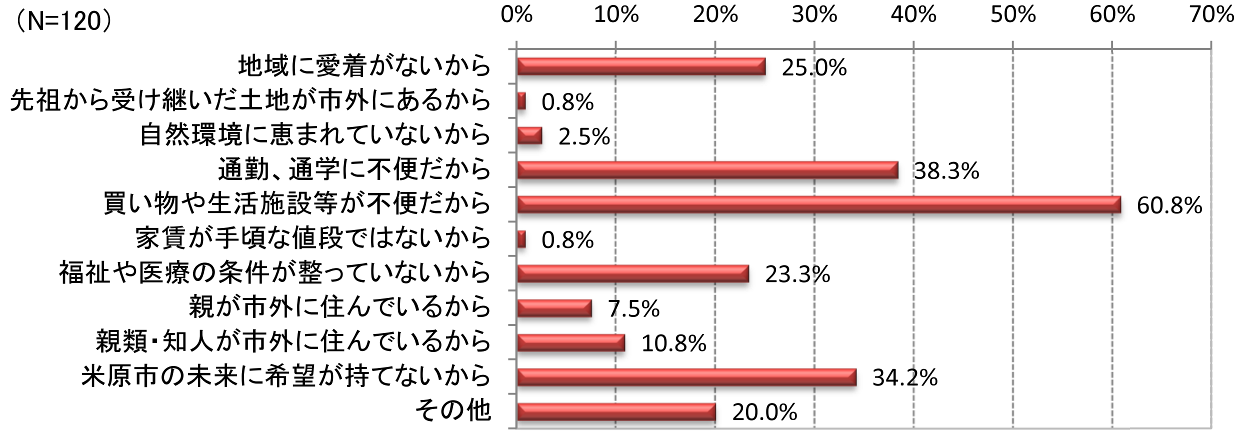






付問2　【問７で「機会があれば市外へ出たい」、「すぐにでも市外へ出たい」と答えられた方】あなたが「市外へ出たい」と思う理由は何ですか。
＜○は４つまで＞

「市外へ出たい」と答えた方の理由について見てみると、「買物や生活施設等が不便だから」が60.8％と最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」が38.3％となっています。また、「その他」の具体的な理由としては、「仕事の都合」、「古い風習が残っている」、「老後の不安」などの理由が挙がっていました。

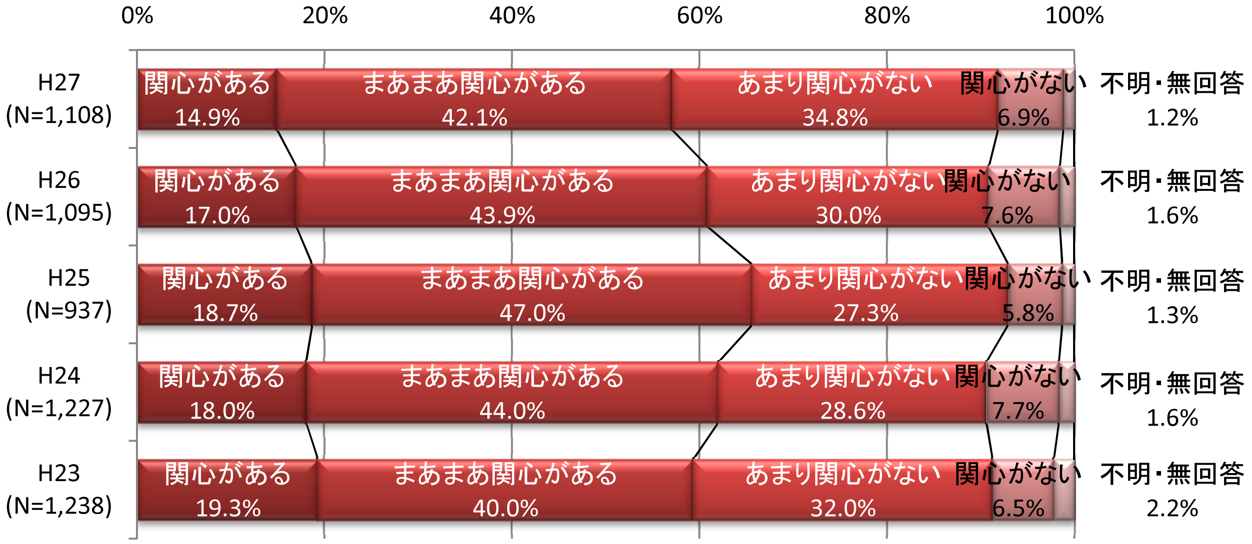


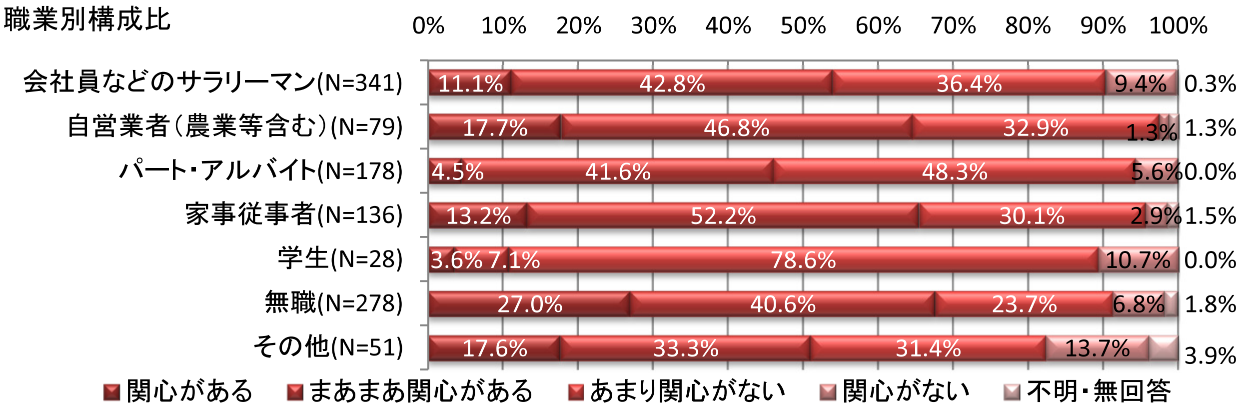
まちづくり全般についてお伺いします。

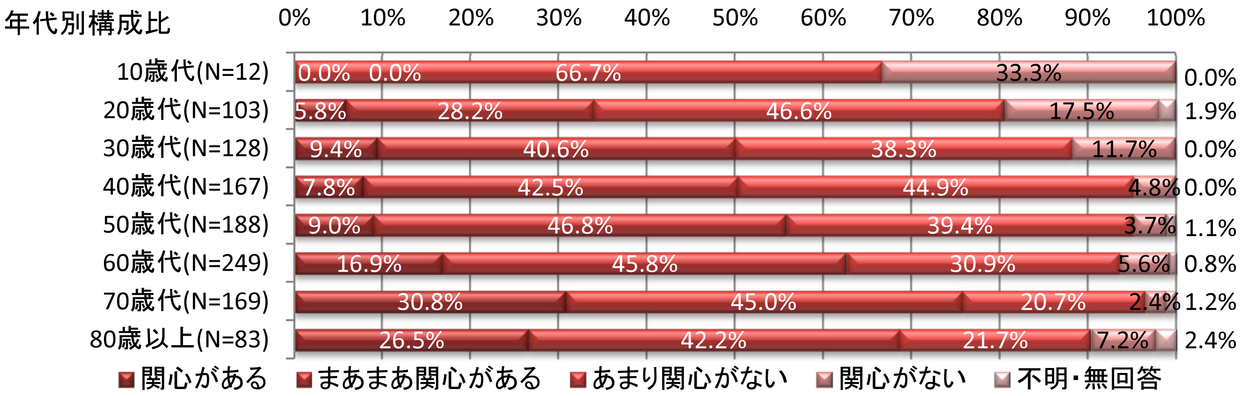
問８　あなたは、市政に関心をお持ちですか。＜○は１つ＞

市政への関心については、「関心がある」、「まあまあ関心がある」を合わせると６割近くの市民が市政に関心を持っています。経年変化では平成25年度まで関心は上昇していましたが、近年は低下傾向にあります。

また、職業別構成比でみると「自営業者（農業等含む）」と「家事従事者」、「無職」で６割半程度の人が市政に関心を持っている一方、「学生」では「あまり関心がない」、「関心がない」の合計が９割近くとなっています。年代別構成比では、「関心がある」と回答する人は年代が上がるにつれて増加する傾向にあります。

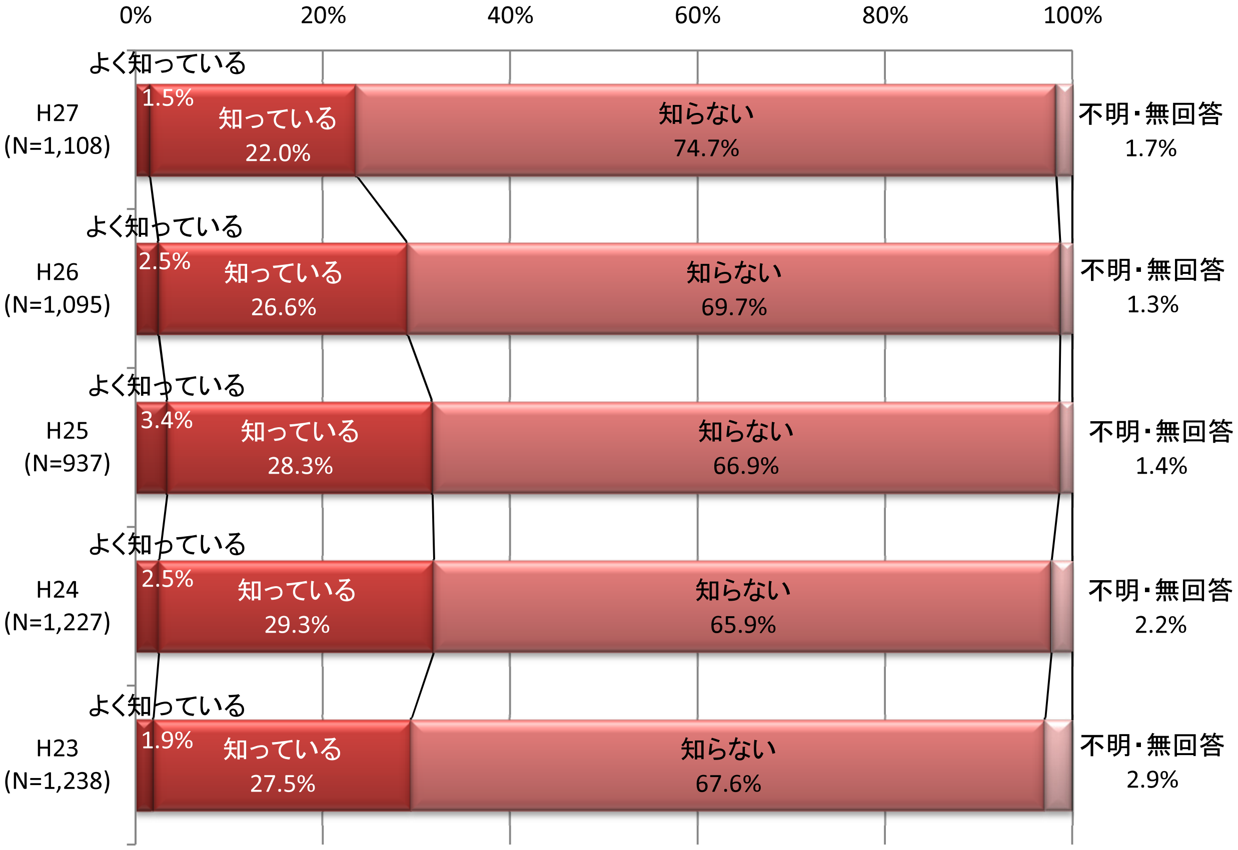






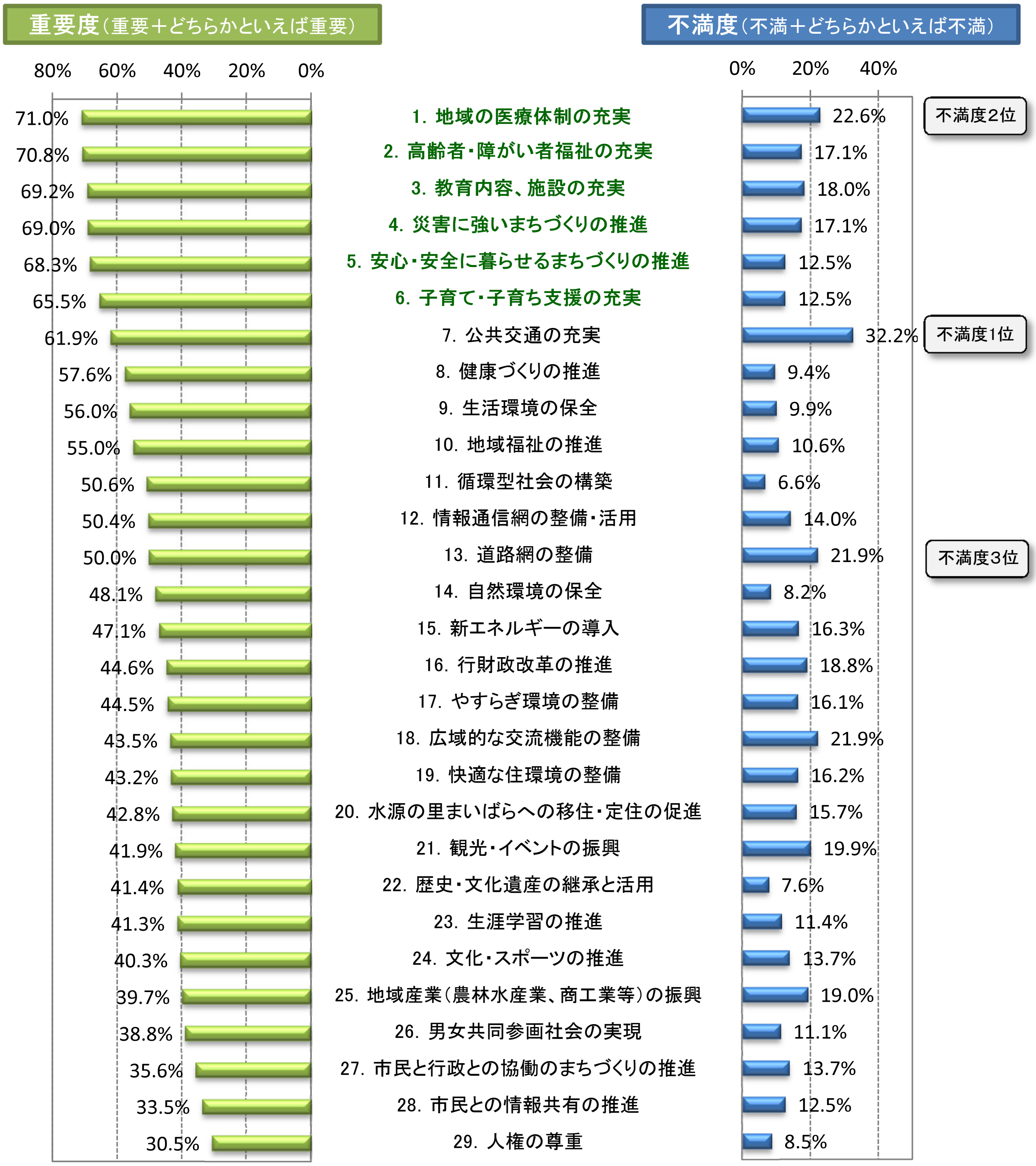
問９　あなたは、市のまちづくりの基本ルールである「米原市自治基本条例」をご存じですか。<○は１つ>

「米原市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」、「知っている」を合わせた「米原市自治基本条例」を知っている人は23.5%で、過去５年間でもっとも低くなっています。
今までに実施した調査でも約７割近くの市民が知らない状況であり、今後も啓発が必要です。



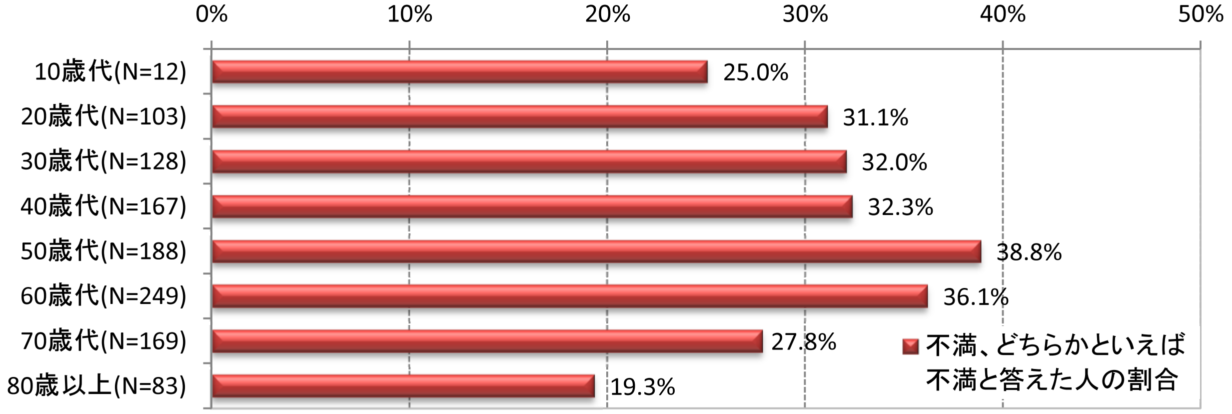
問10 市では、次に示す２９項目の施策に取り組んでいます。
あなたは、次の各項目について、現状をどのように評価し、今後取り組むことがどのくらい重要だとお考えですか。あなたのお考えに一番近い番号を「１～５」の中からそれぞれ１つずつ選んで、番号に○をつけてください。難しく考えずに、イメージでお答えください。＜<u>○は満足度と重要度に１つずつ、計２つ</u>＞

重要度の上位にランクされた６項目については、順位の入れ替わりはあるものの、昨年度調査と同様に重要度が高いものと認識されていることから、今後も継続して取組を進める必要があります。
不満度では、「７．公共交通の充実」、「１．地域の医療体制の充実」、「13．道路網の整備」の順に高く、快適で安心して利用できる公共交通の確保や地域医療体制の充実などに今後さらに力を入れていくことが求められています。

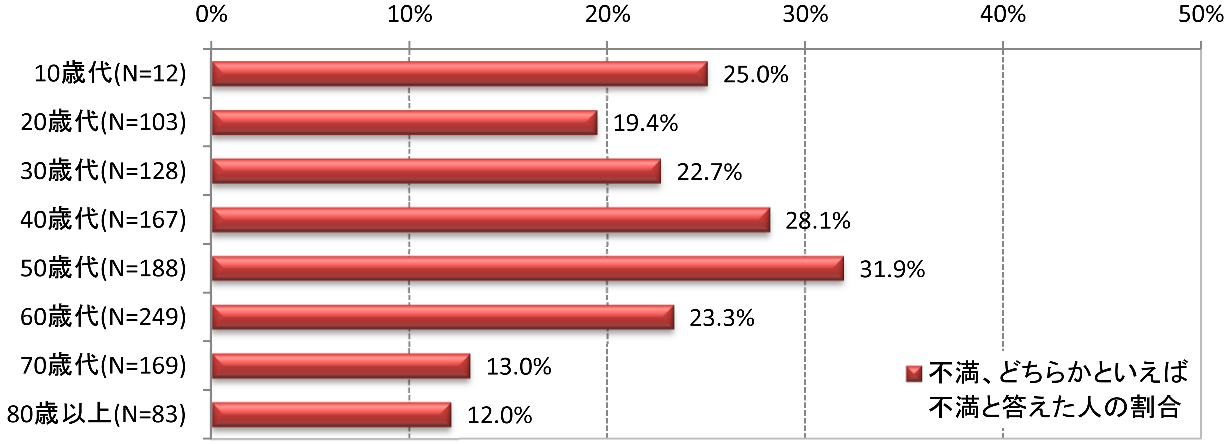


また不満度の上位３つについて年代別に見てみると、公共交通の充実（不満度１位）については80歳以上を除くすべての年代で２割を超える人が不満を抱いていることがわかります。地域の医療体制の充実（不満度２位）については40歳代・50歳代では不満を抱える人が３割前後で、以降は年代が上がるにつれ少なくなる傾向にあります。道路網の整備（不満度３位）については、20歳代から60歳代にかけて２割を超える人が不満を抱えています。

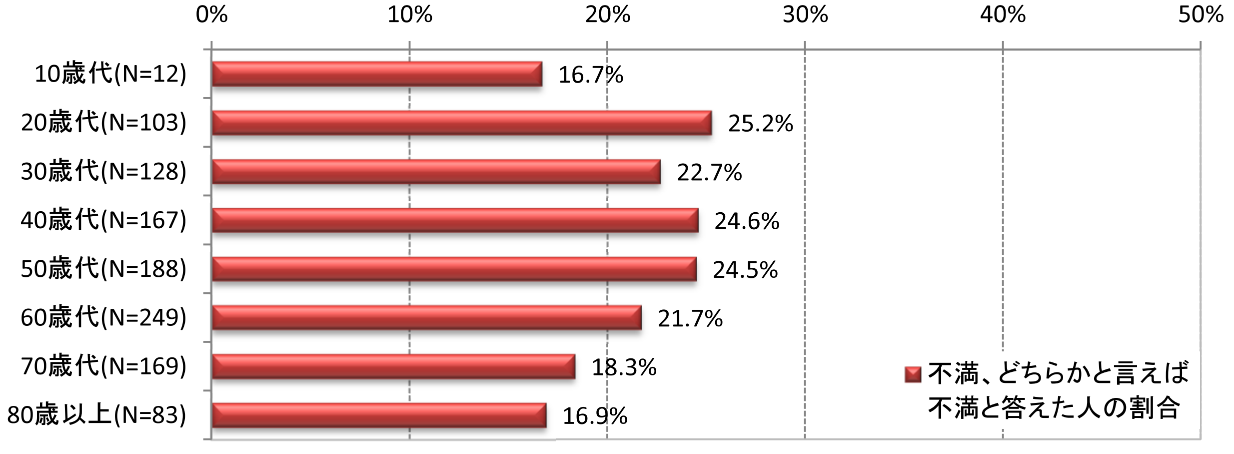
7. 公共交通の充実（不満度1位 ）年代別不満度



1. 地域の医療体制の充実（不満度2位 ）年代別不満度

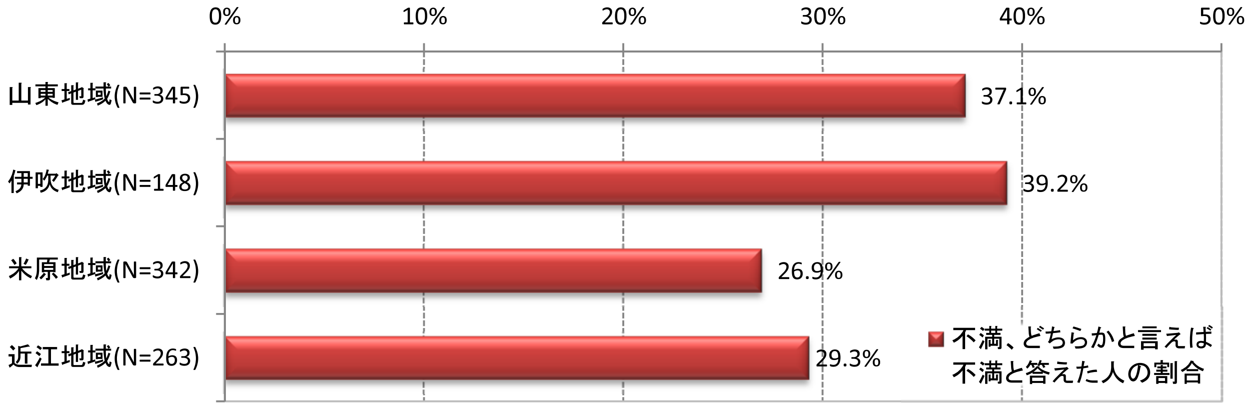


13. 道路網の整備（不満度3位 ）年代別不満度

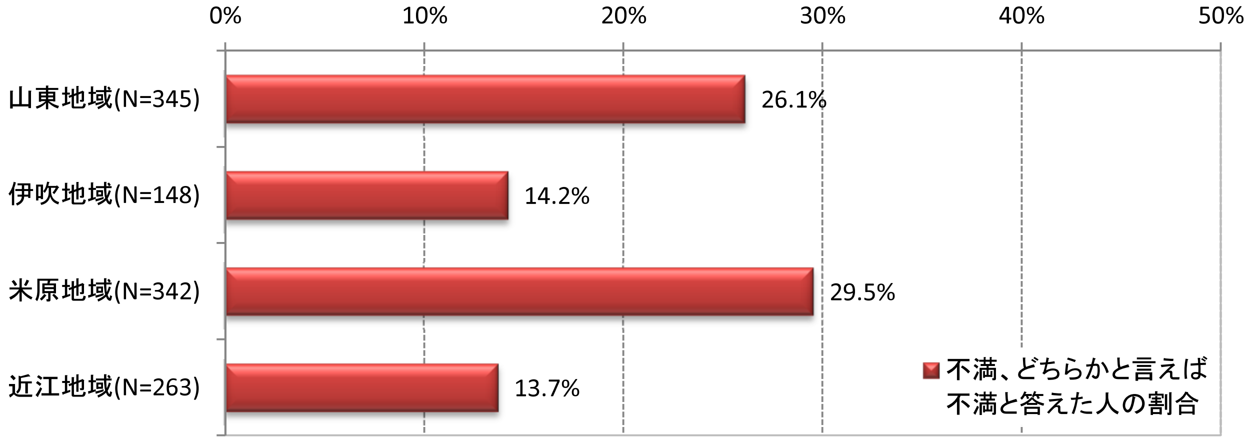


また不満度の上位３つについて地域別に見てみると、「公共交通の充実」では伊吹地域の不満度が最も高く、「地域の医療体制の充実」では米原地域、「道路網の整備」では山東地域と地域差があることが分かります。

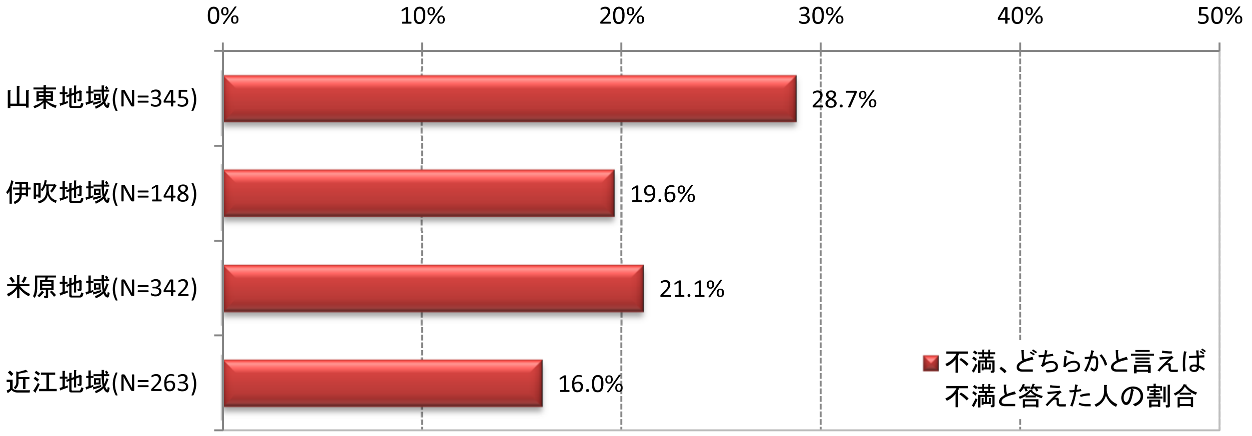
7. 公共交通の充実（不満度1位）地域別不満度



1. 地域の医療体制の充実（不満度2位）地域別不満度



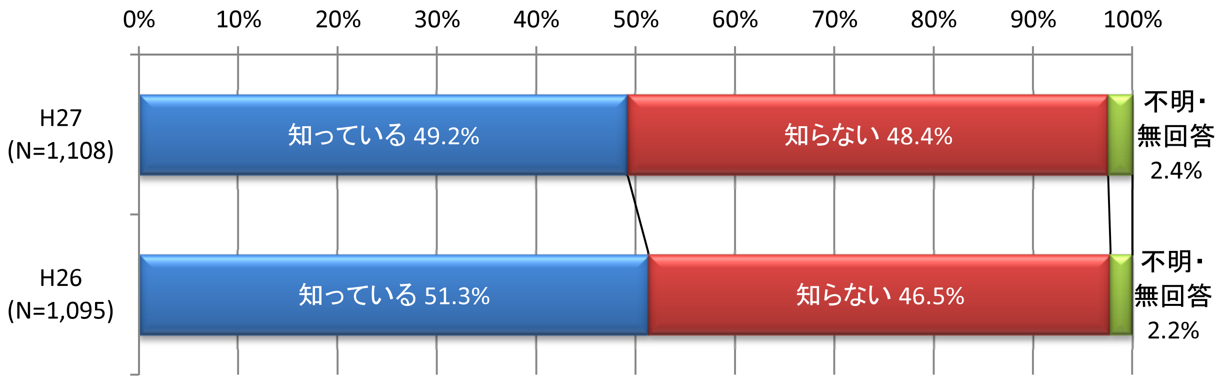
13. 道路網の整備（不満度3位）地域別不満度



「1．誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち」に関する設問です。

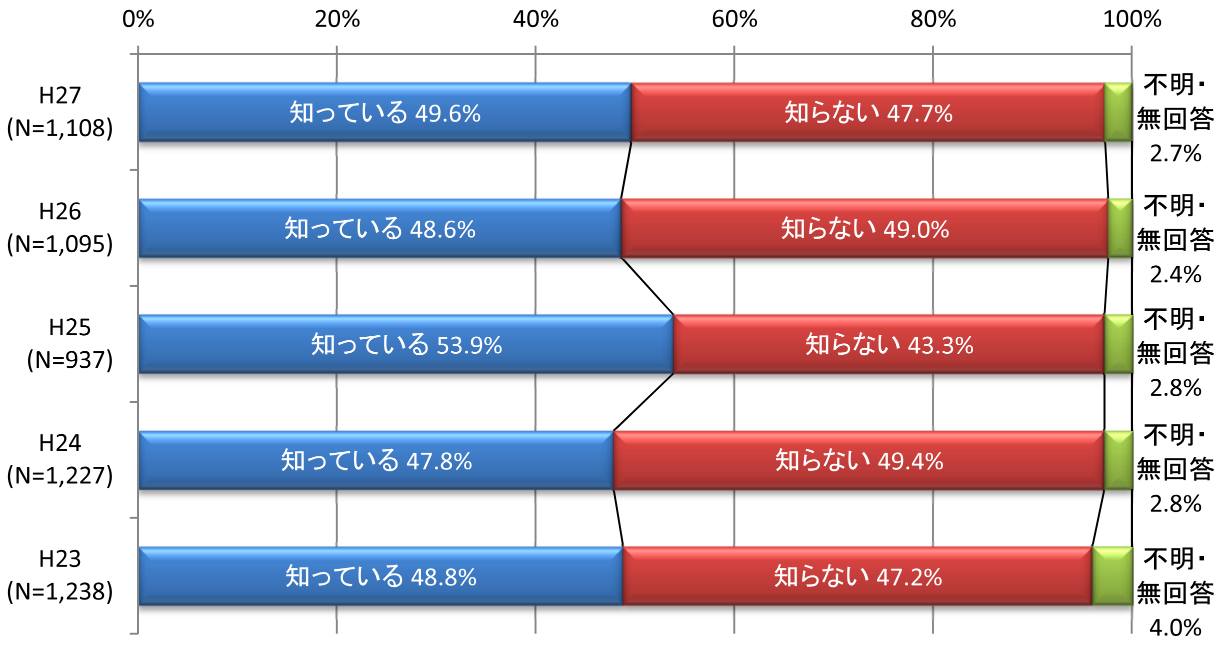
問11 あなたは、まちづくり市民大学「ルッチ大学」をご存じですか。
＜○は１つ＞

まちづくり市民大学「ルッチ大学」の認知度については、「知っている」が49.2%、「知らない」が48.4%となっています。前年調査に比べ、認知度は若干下がっています。



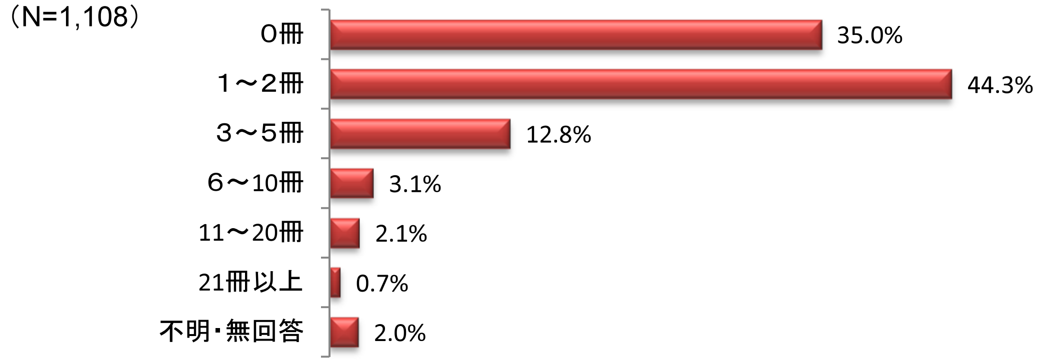
問12 あなたは、市が「非核・平和都市宣言のまち」であることをご存じですか。
＜○は１つ＞

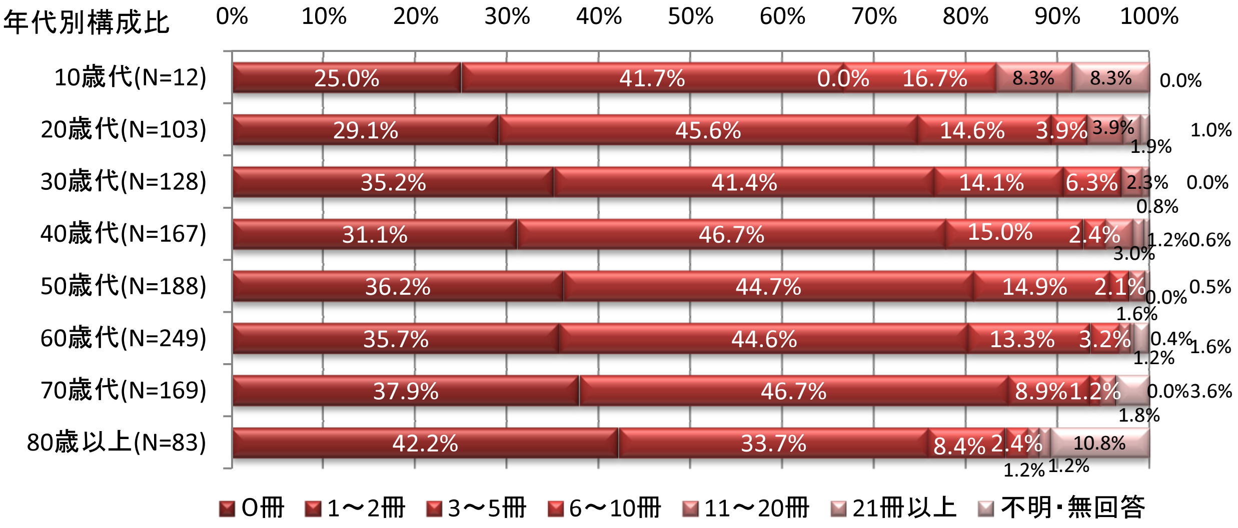
市が「非核・平和都市宣言のまち」であることの認知度については、「知っている」が49.6%、「知らない」が47.7%となっています。
経年変化で見てみると、認知度は概ね５割程度で推移しています。

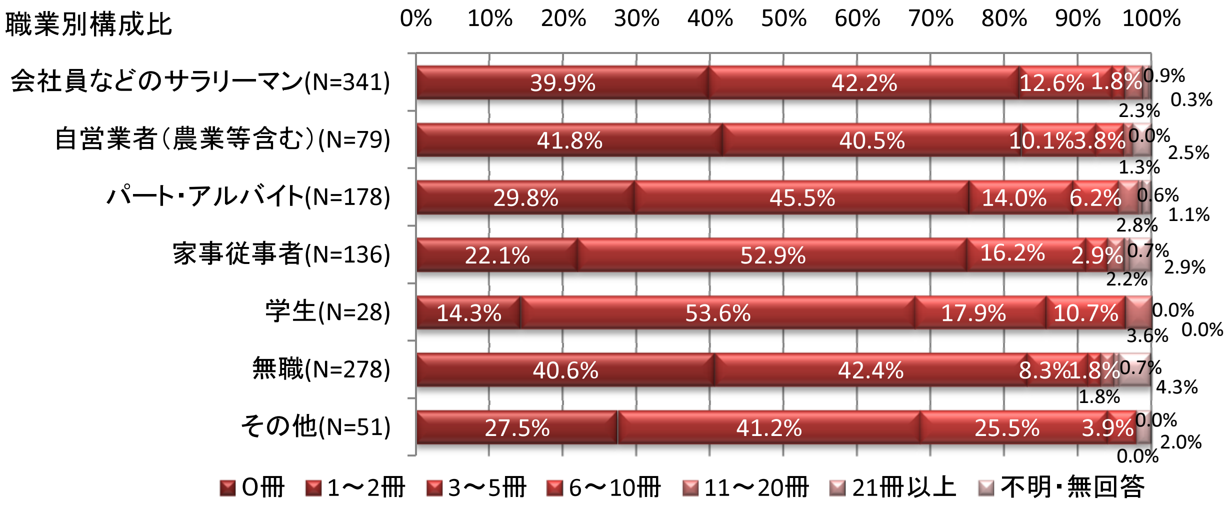


問13 あなたは、本を１か月に何冊くらい読みますか。
＜○は１つ＞

１か月に読む本の冊数は、「１～２冊」が44.3％、「０冊」が35.0％となっています。年代別では40歳代と70歳代で「１～２冊」が他の年代に比べて高く、職業別では学生で「１～２冊」が53.6％と高くなっています。

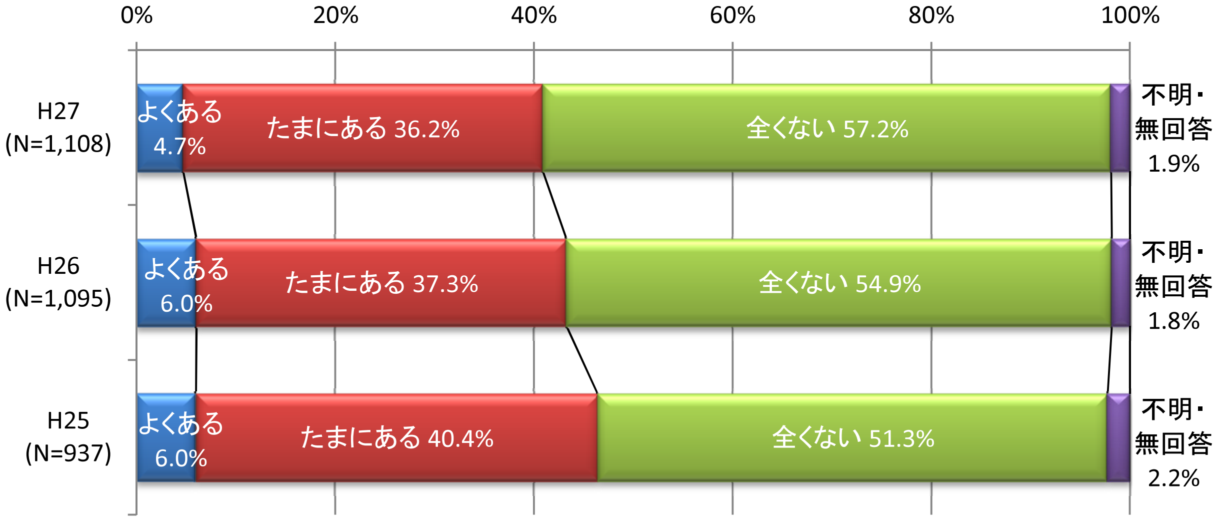






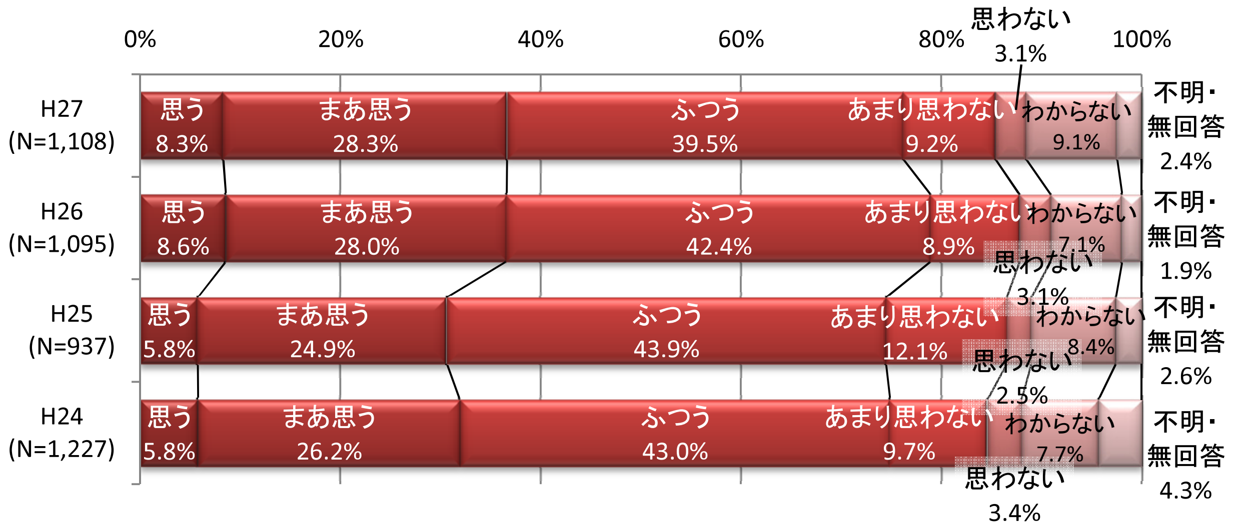
問14 あなたは、地域の子どもたちと遊んだり、一緒に活動したりすることはありますか。<○は１つ>

地域の子どもたちと遊んだり、一緒に活動することの有無について見てみると、「よくある」、「たまにある」を合わせた『ある』は40.9％で、「全くない」の57.2％を下回っており、地域の子どもたちと遊んだり、一緒に活動していない市民の方が多くなっています。
経年変化では、『ある』が低下傾向にあり、「全くない」が上昇しています。子どもたちとの活動機会が減少しつつあるといえます。

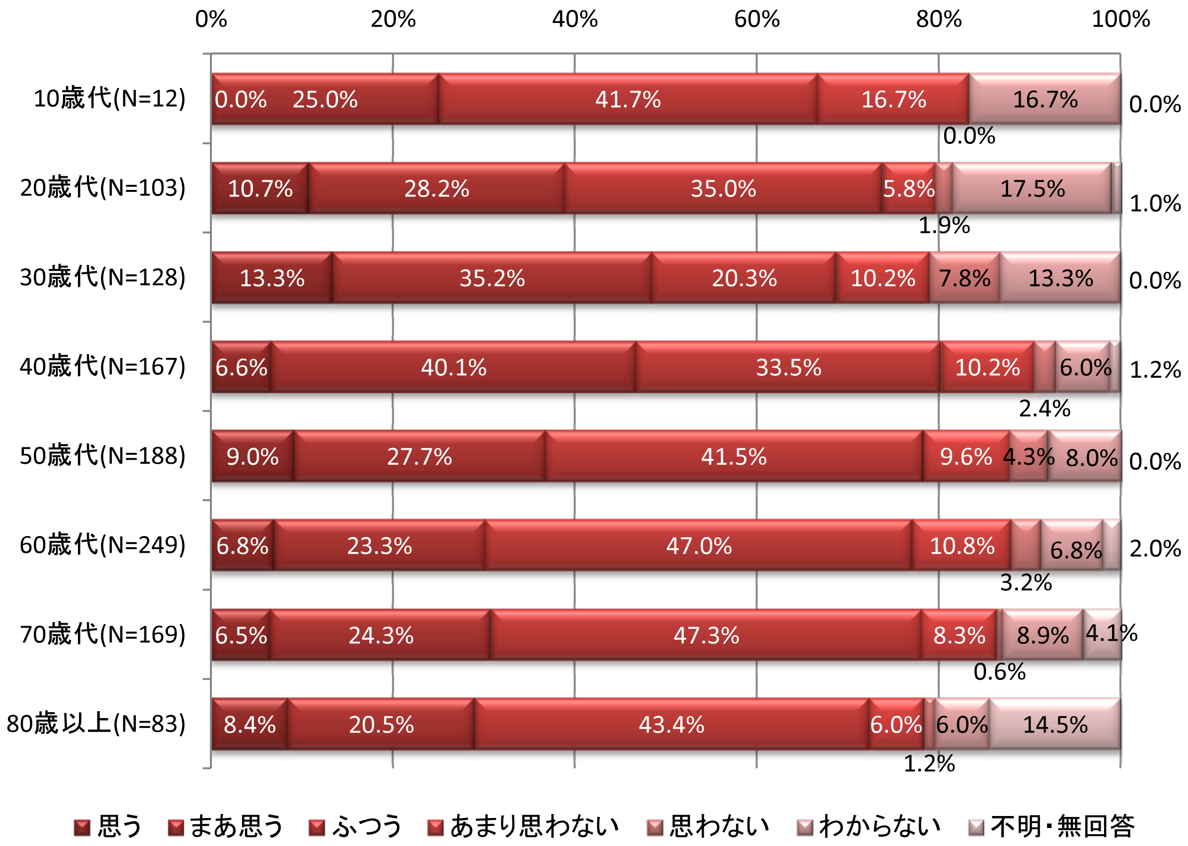


問15 あなたは、米原市を子育てしやすいまちだと思いますか。<〇は１つ>

米原市を子育てしやすいまちだと思うかについて見てみると、「ふつう」の割合が39.5％と最も多く、「思う」、「まあ思う」を合わせた『思う』が36.6％に対して、「あまり思わない」、「思わない」を合わせた『思わない』が12.3％となっています。
また年代別構成比では、20歳代から70歳代の３割以上の人が「思う」、「まあ思う」と回答しており、20歳代～40歳代では４割前後に達しています。一方で「あまり思わない」、「思わない」と回答している人は10歳代と30歳代で多くなっています。

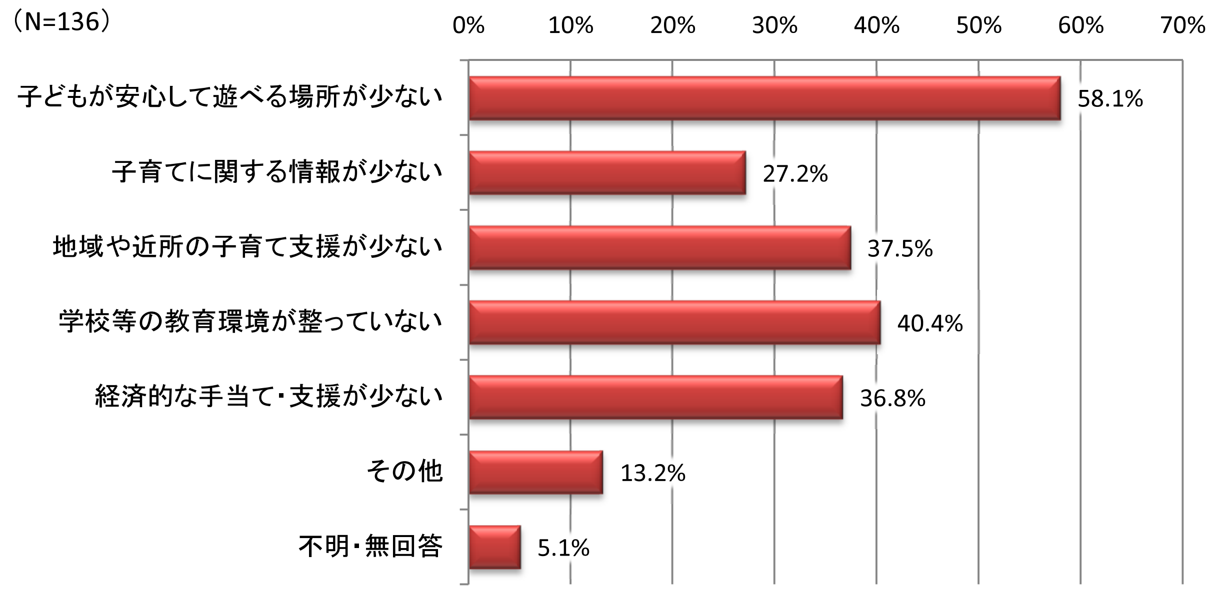


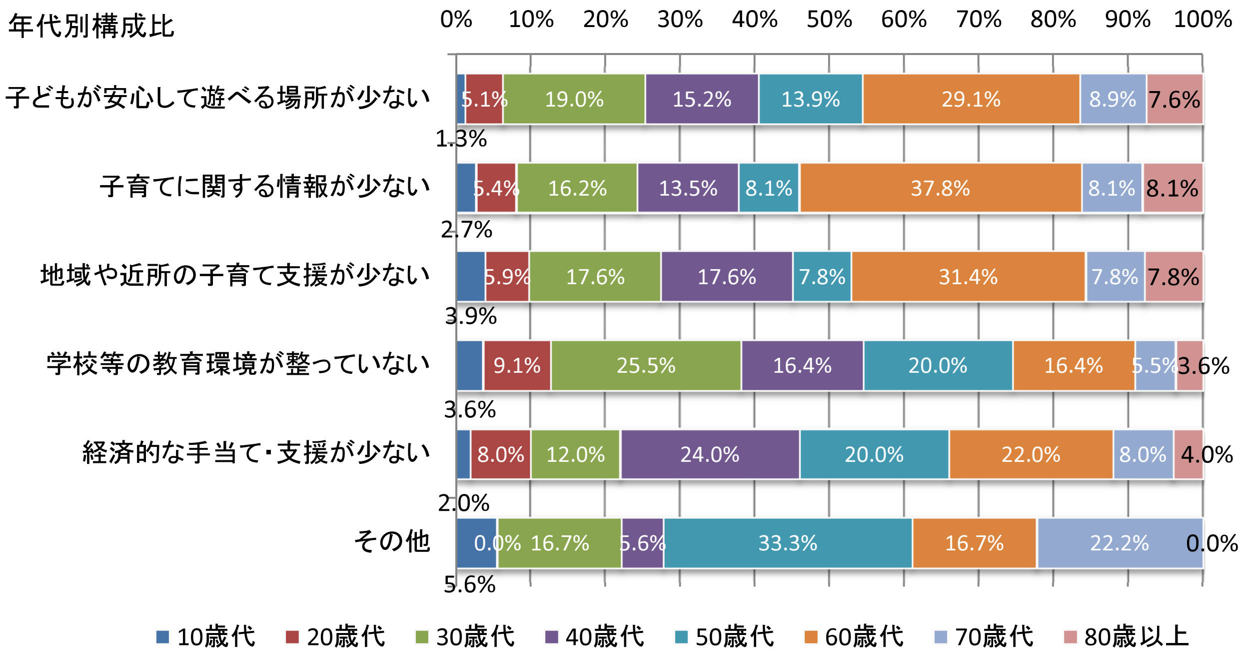
年代別構成比



付問１　【問15で「あまり思わない」、「思わない」と答えられた方】子育てしにくいところはどんなところですか。＜あてはまるものすべてに○＞

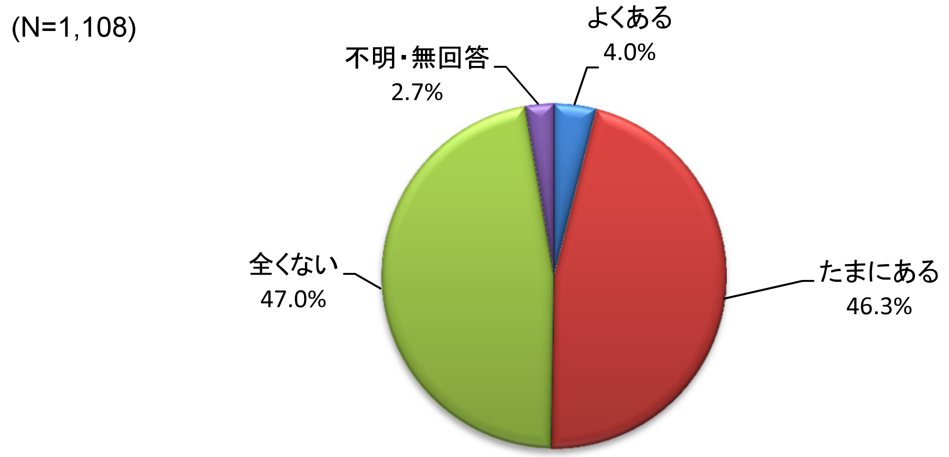
「あまり思わない」または「思わない」と答えた方の、その理由について見てみると、「子どもが安心して遊べる場所が少ない」が58.1%と最も多く、次いで「学校等の教育環境が整っていない」が40.4%、「地域や近所の子育て支援が少ない」が37.5%となっています。
　また、年代別構成比でみると「子どもが安心して遊べる場所が少ない」、「子育てに関する情報が少ない」、「地域や近所の子育て支援が少ない」については30歳代と60歳代で選択している人が多いことが分かります。また、「学校等の教育環境が整っていない」は30歳代で多く、「経済的な手当て・支援が少ない」は40歳代と60歳代で多くなっています。

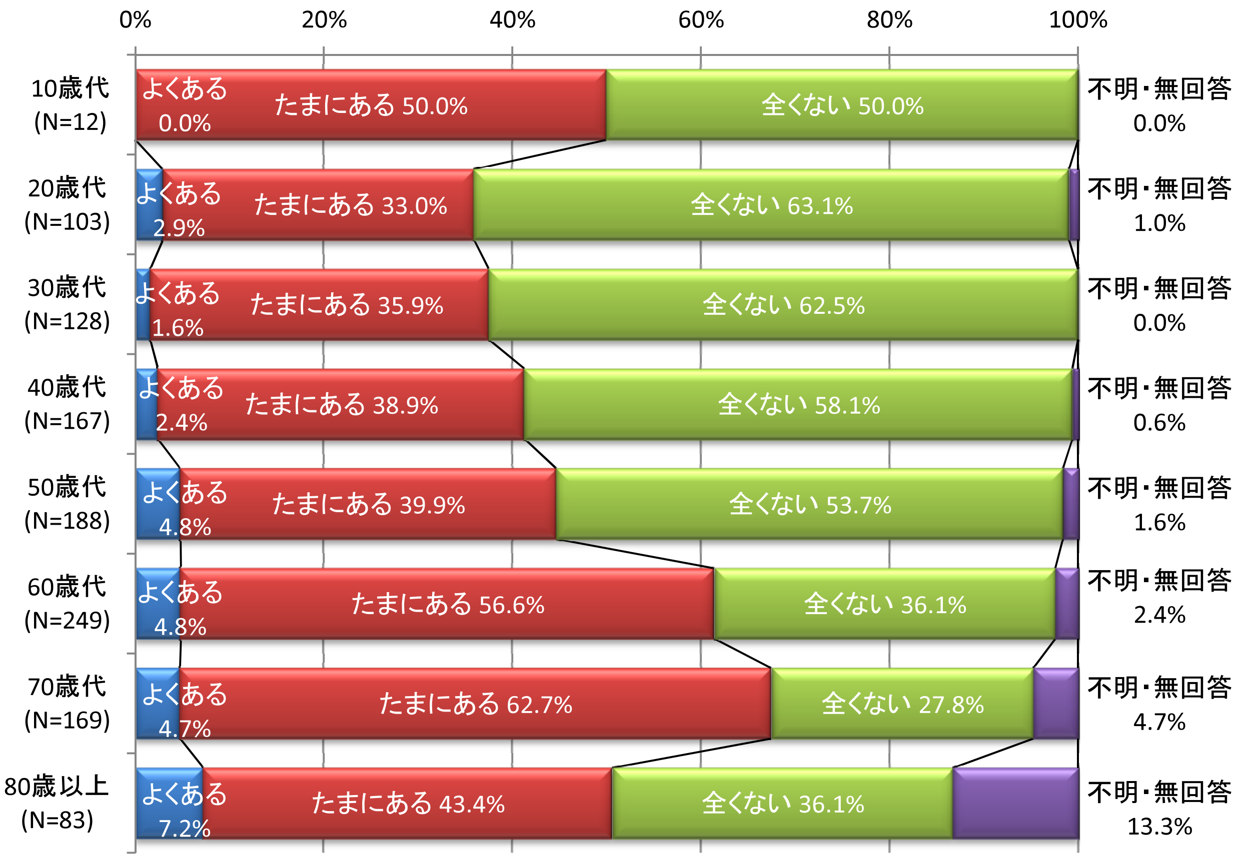




問16 あなたは、地域で困っている人を手助けしたり、相談に乗ったりすることはありますか。<○は１つ>

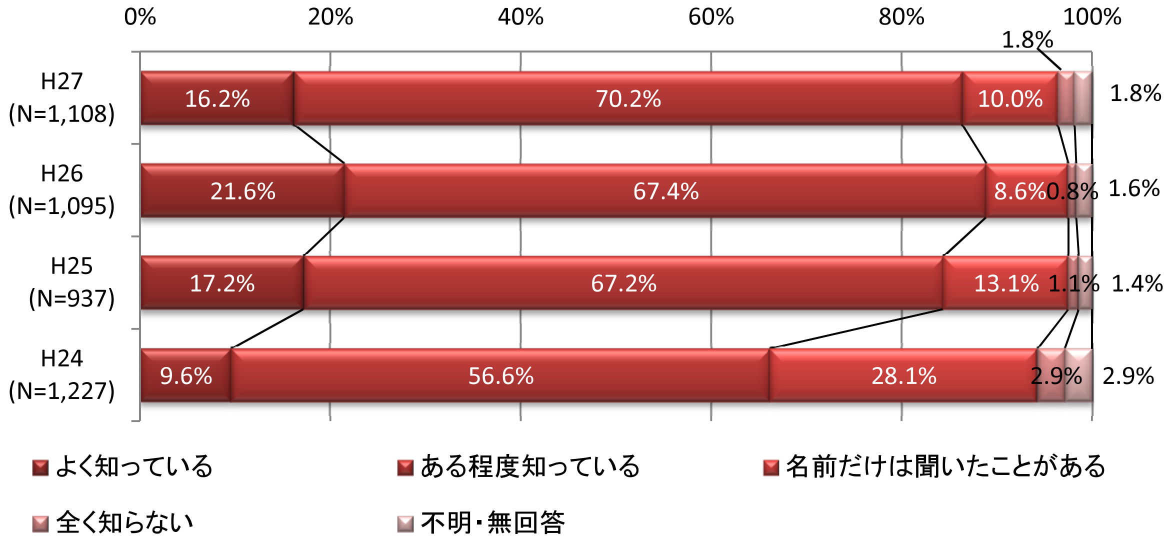
地域で困っている人の手助けや相談に乗ることが「よくある」は4.0%、「たまにある」46.3%、「全くない」47.0%となっています。年代別では20歳代と30歳代で「全くない」が６割強と高くなっています。





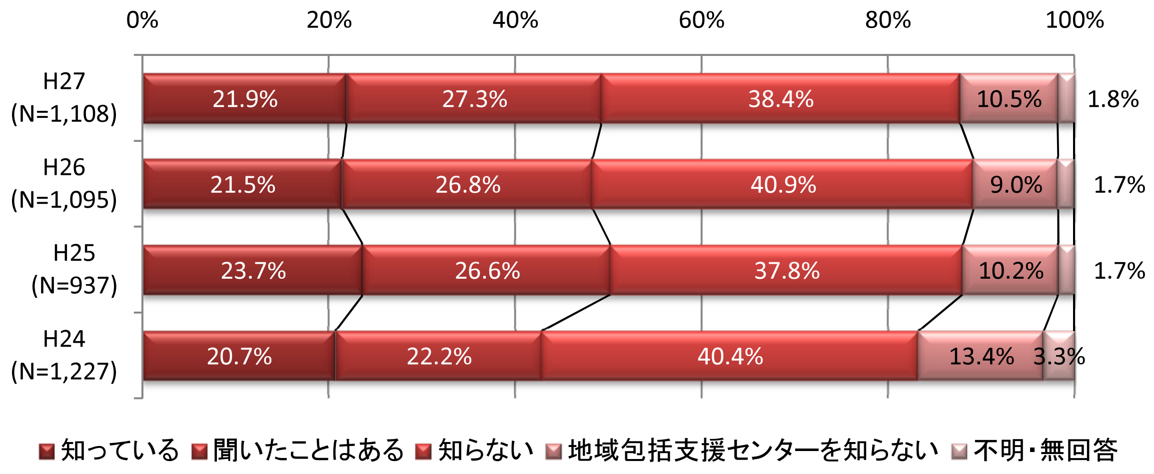
問17 あなたは、認知症について、どのくらいご存じですか。<〇は１つ>

「認知症」の認知度については、「よく知っている」が16.2%と昨年度調査に比べ5.4ポイント減、「ある程度知っている」が70.2%の2.8ポイント増、「よく知っている」、「ある程度知っている」を合わせた『知っている』の割合が86.4%と2.6ポイント減となっており、認知度が下がっています。



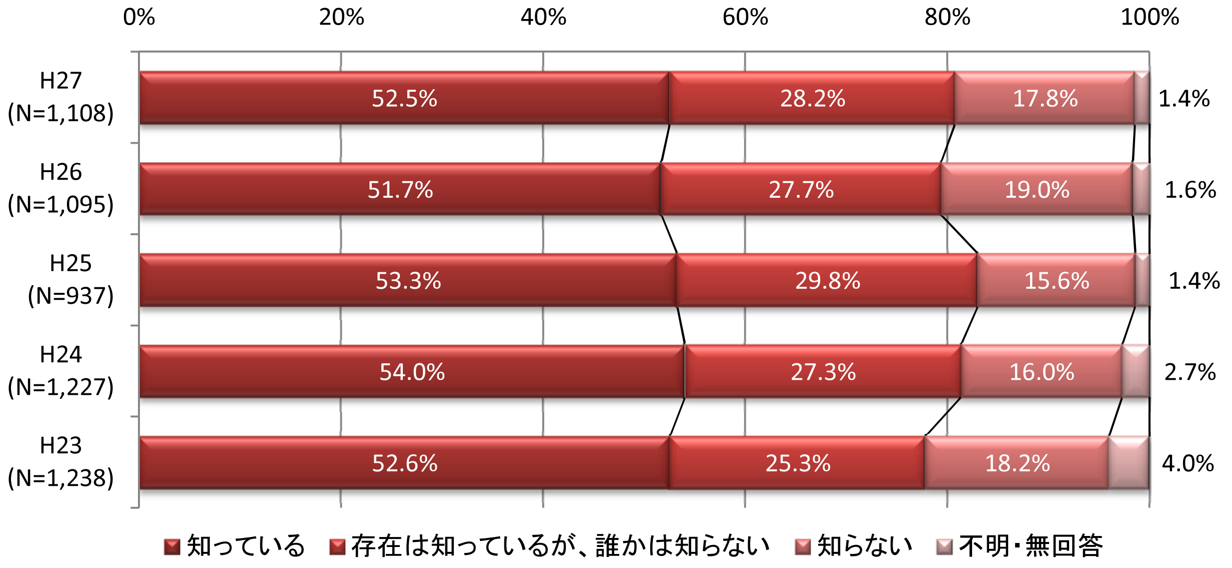
問18 あなたは、山東庁舎内にある「地域包括支援センター」で介護保険や認知症などの相談をお受けしていることをご存じですか。<〇は１つ>

山東庁舎内にある「地域包括支援センター」で介護保険や認知症などの相談を受けていることの認知度については、「知っている」、「聞いたことはある」を合わせると約５割の市民が『知っている』という結果になりました。
経年変化でみると、「地域包括支援センターを知らない」の割合は減少し続けており、地域包括支援センターの認知度が上がっています。



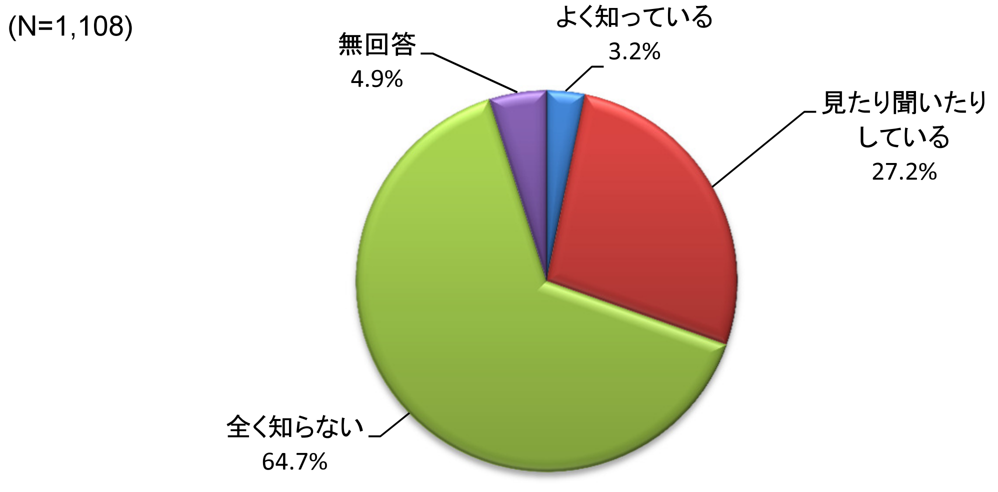
問19 あなたは、地域を担当する「民生委員児童委員」をご存じですか。<〇は１つ>

「民生委員児童委員」の認知度については、「知っている」が52.5%と５割以上であり、「存在は知っているが誰だか知らない」（28.2%）、「知らない」（17.8%）の合計を上回っています。
経年変化で見てみると、「知っている」の割合は平成23年度に５割に達して以降ほぼ横ばいとなっています。



問20 あなたは、『米原市民の健康づくり８か条』をご存じですか。<〇は１つ>

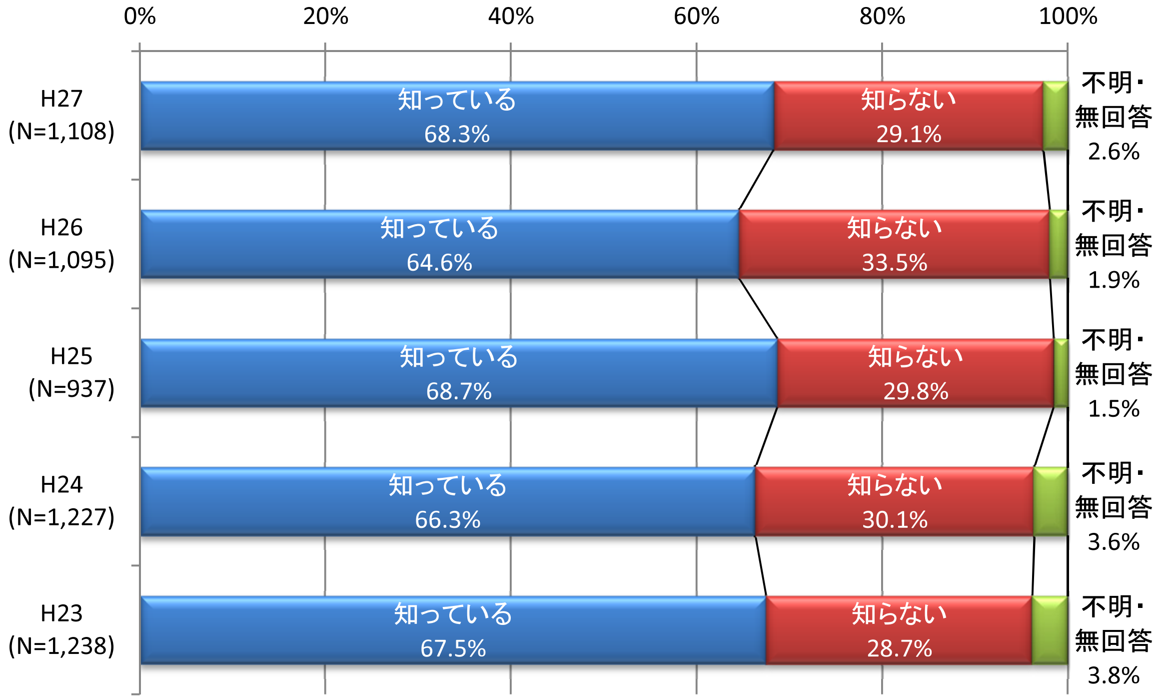
「米原市民の健康づくり８か条」については、「よく知っている」が3.2%、「見たり聞いたりしている」が27.2%、「全く知らない」が64.7%と、知らない人のほうが多くなっています。



「３．田舎都市が魅せるいやしのまち」に関する設問です。

問21 あなたは、「米原市蛍保護条例」で市内全域がホタルの保護区域に定められていることをご存じですか。<〇は１つ>

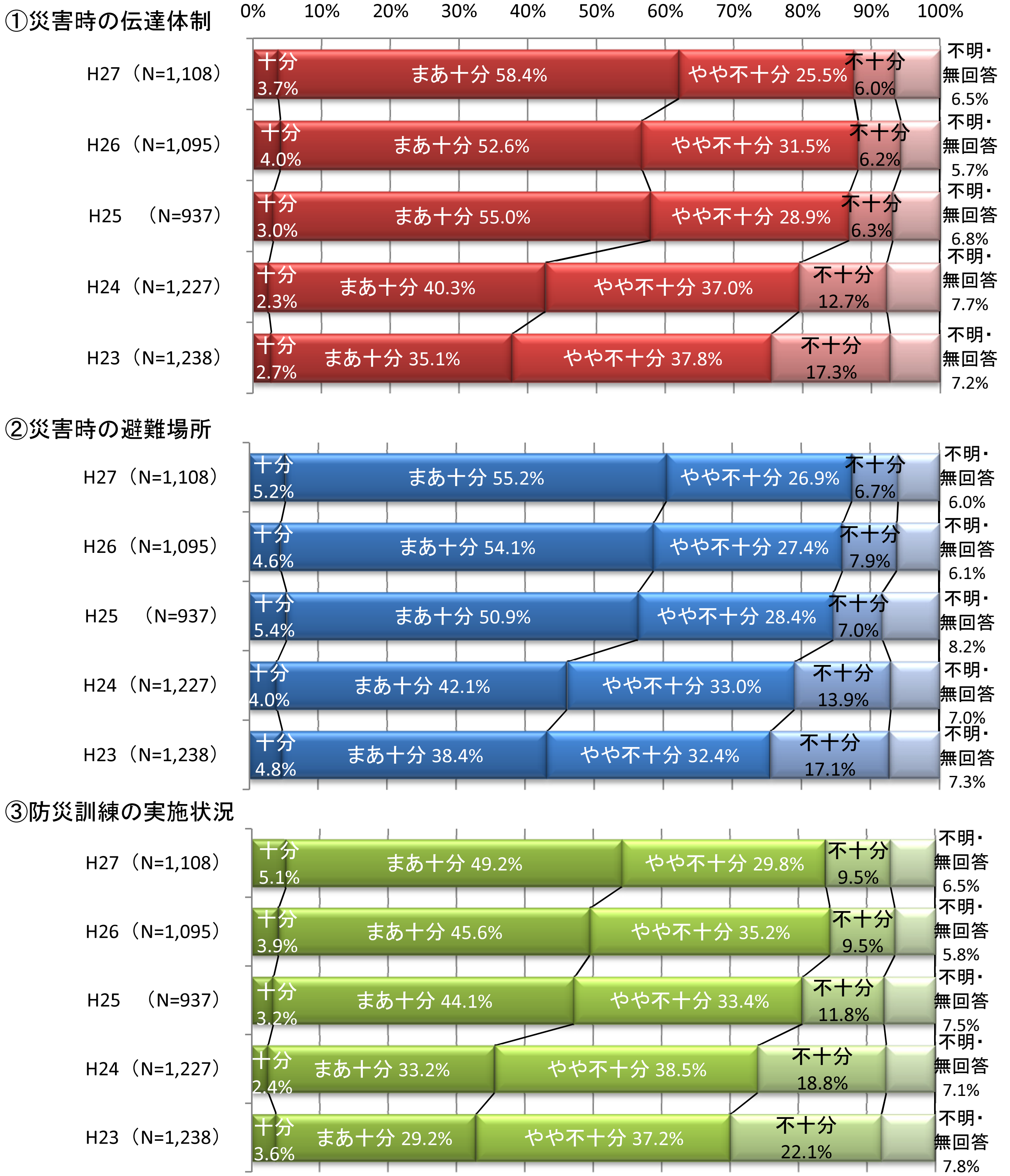
「米原市蛍保護条例」で市内全域がホタルの保護区域に定められていることの認知度についてみると、概ね７割近くの市民が「知っている」と答えています。平成27年度は昨年度よりも上昇しています。



「4．災害に強く生活が便利なほっとするまち」に関する設問です。

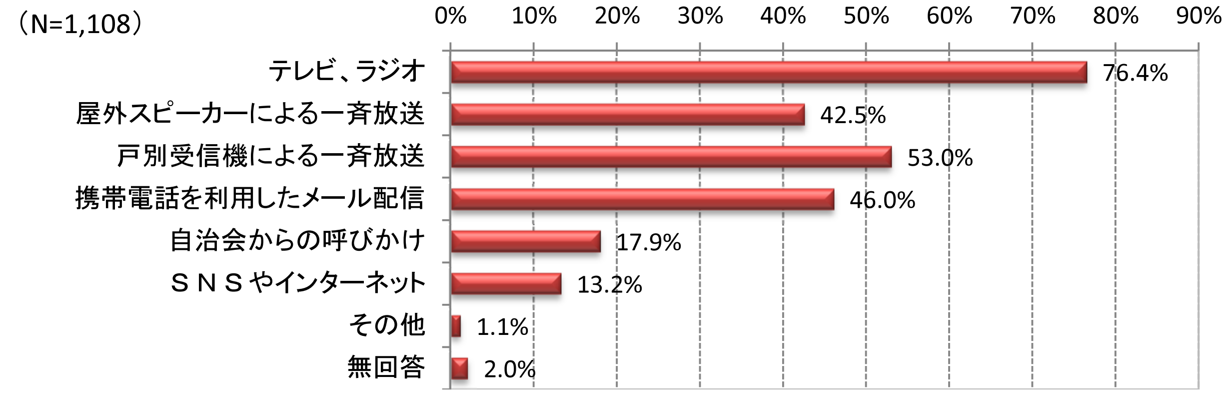
問22 あなたは、災害に対する備えとして、次の項目は十分だと思いますか。
＜○はそれぞれ１つずつ＞

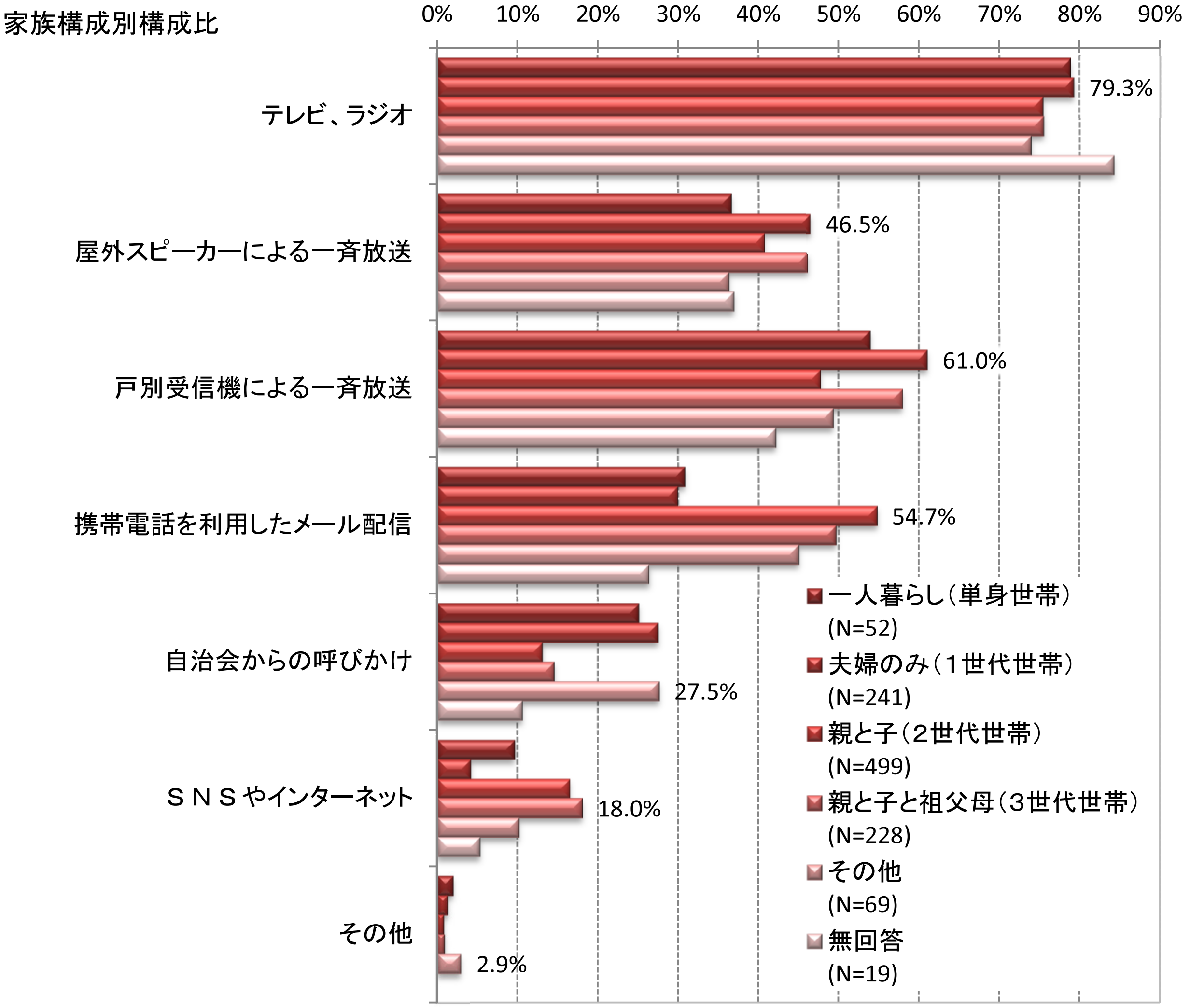
災害に対する備えについて見てみると、①災害時の伝達体制、②災害時の避難場所、③防災訓練の実施状況の各項目において『十分』（「十分」および「まあ十分」）の割合が『不十分』（「やや不十分」および「不十分」）を上回っています。
経年変化で見てみると、すべての項目で『十分』のポイントが上昇傾向にあります。



問23 あなたは、災害発生時または災害が発生しそうなとき、どのような手段で情報（避難情報を含む）を得ていますか。＜○は主なもの３つ＞

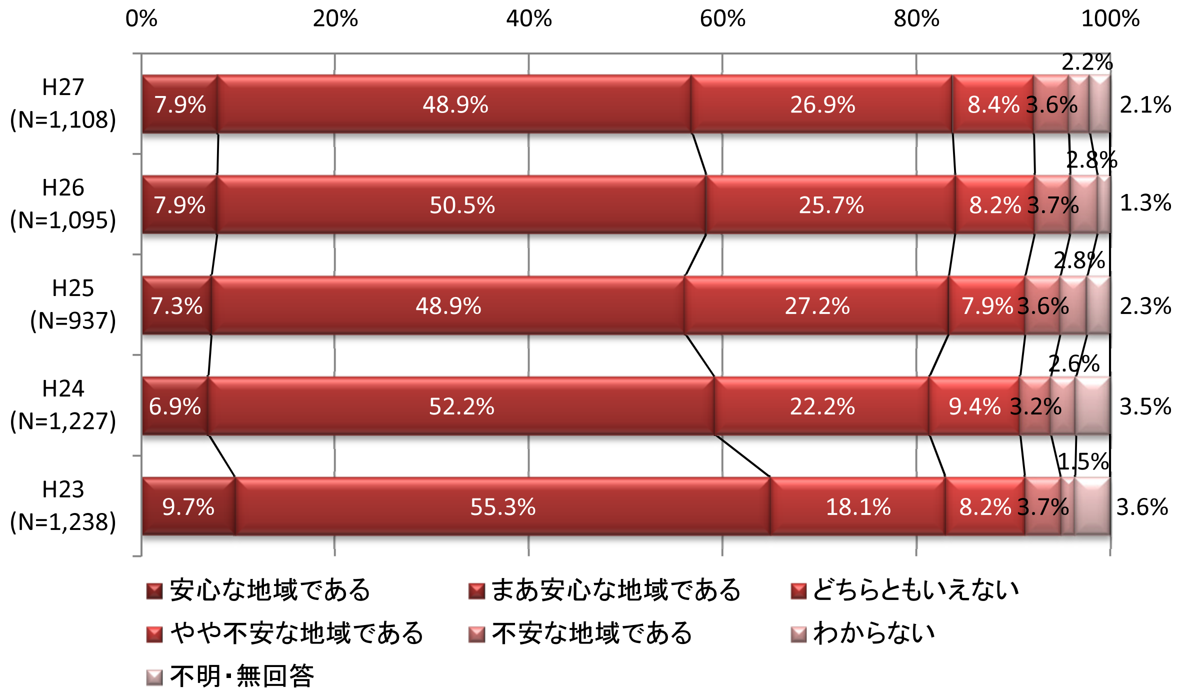
災害発生時の情報入手手段は、「テレビ、ラジオ」が76.4%と最も高く、次いで「戸別受信機による一斉放送」が53.0%となっています。
家族構成別に見ると、「携帯電話を利用したメール配信」は「親と子（２世代世帯）」で高くなっており、「ＳＮＳやインターネット」は「親と子と祖父母（３世代世帯）」で高くなっています。



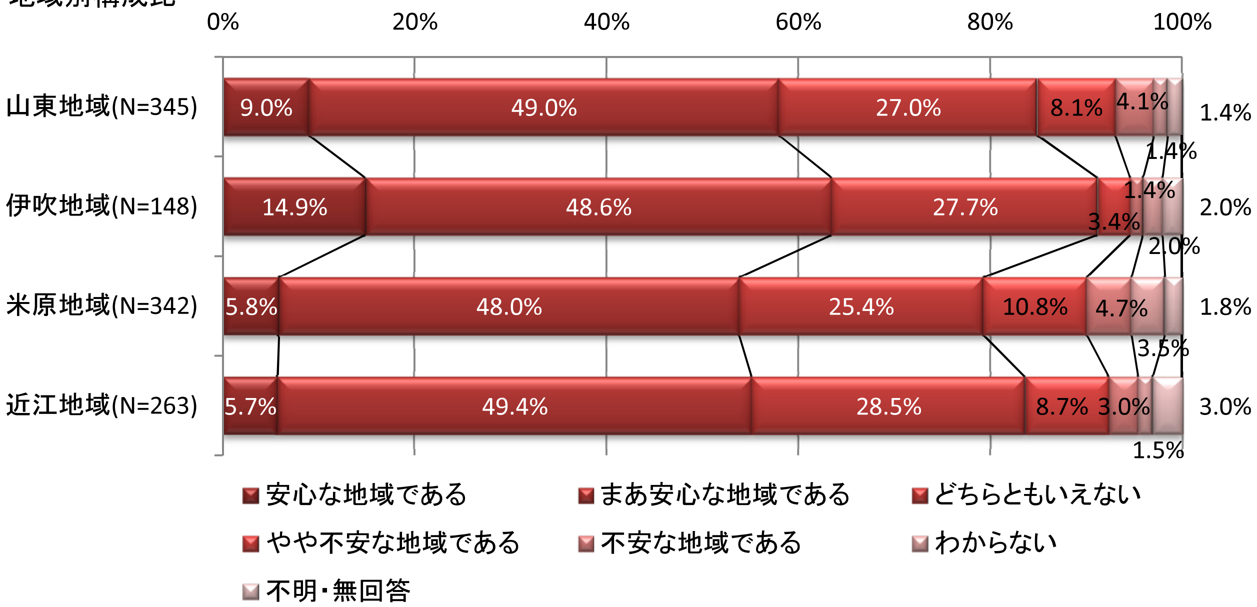


問24 あなたが暮らしている地域は、犯罪や非行に対して安心な地域だと思いますか。＜○は１つ＞

暮らしている地域は、犯罪や非行に対して安心な地域だと思うかについては、「安心な地域である」と「まあ安心な地域である」の合計は56.8%と、「やや不安な地域である」と「不安な地域である」の合計の12.0%を上回っており、安心な地域としての認識が高まっています。
経年変化で見てみると、平成23年度が最も『安心』（「安心な地域である」と「まあ安心な地域である」の合計）が高くなっていますが、５～６割台の市民が『安心』、１割強の市民が『不安』（「不安な地域である」と「やや不安な地域である」の合計）、２～３割の市民が「どちらともいえない」という状態で推移しています。
地域別構成比でみると、米原地域では『安心』の割合が全体に比べて3ポイント低く、伊吹地域では6.7ポイント高いことが分かります。



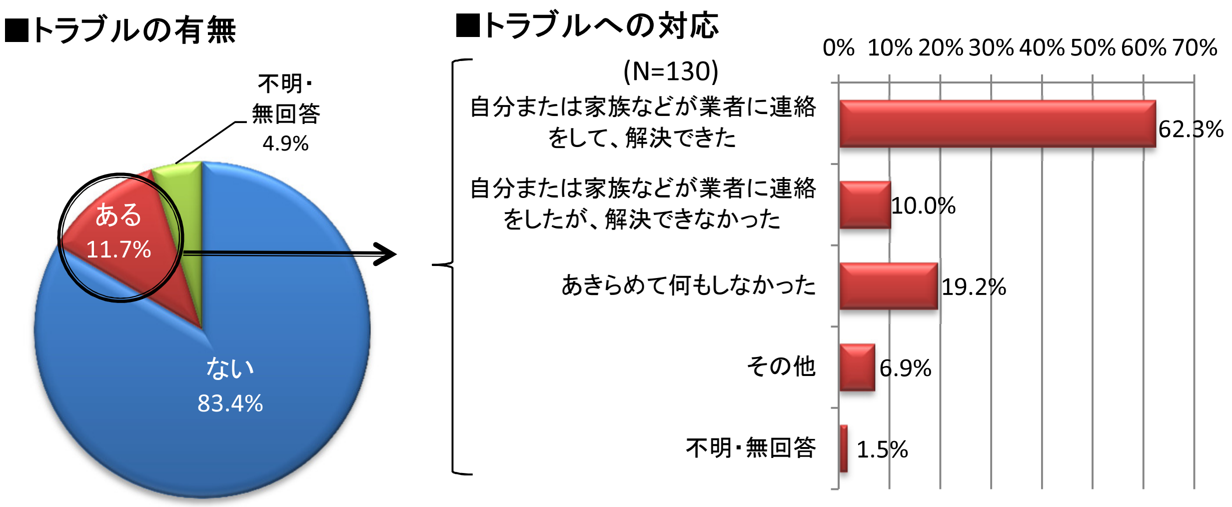
地域別構成比

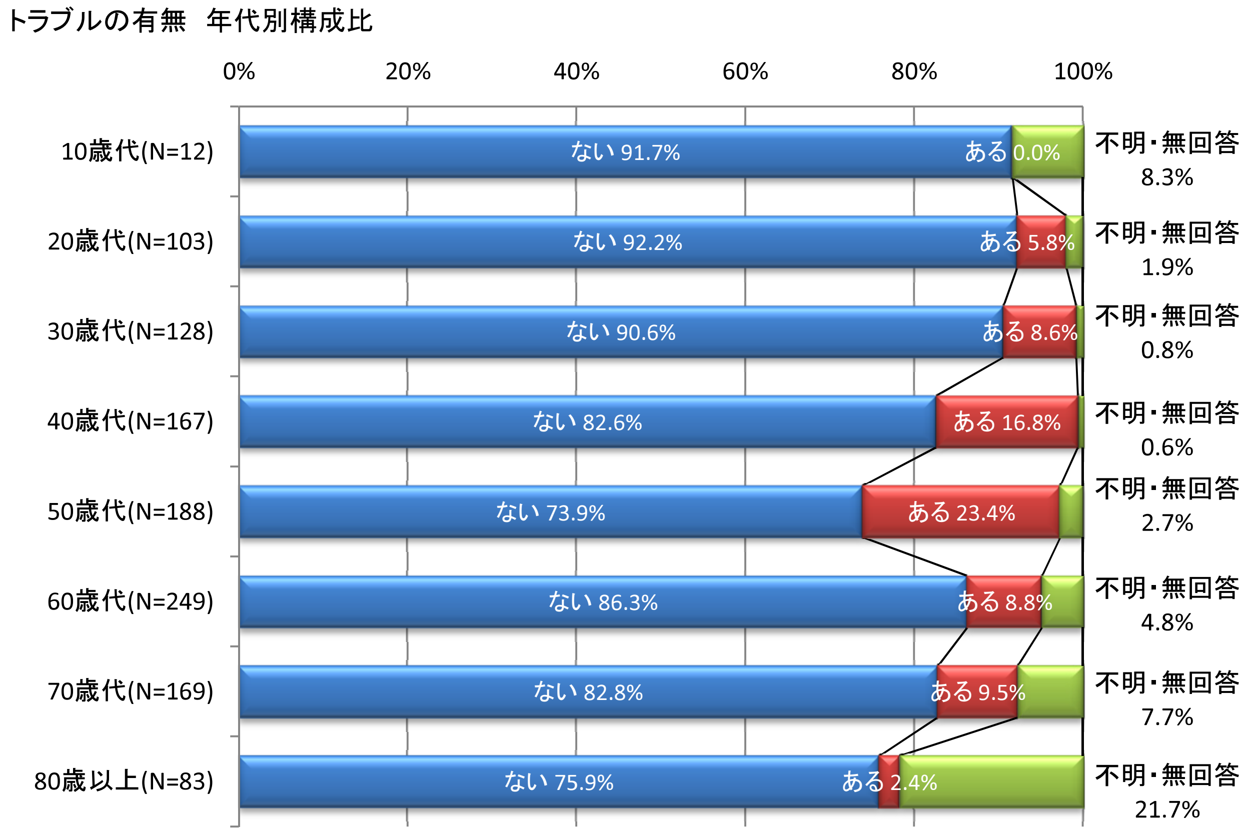


問25 あなたは、過去に商品の購入やサービス等の契約をしてトラブルになったことがありますか。<○は１つ>

付問１ 【問25で「ある」と答えられた方】そのときあなたはどうされましたか。<○は１つ>

消費生活に係るトラブルについて見てみると、１割弱の市民が何らかのトラブルを経験しており、そのうち約６割の人が「自分または家族などが業者に連絡をして、解決できた」となっています。一方で、「自分または家族などが業者に連絡をしたが、解決できなかった」と「あきらめて何もしなかった」を合わせると、29.2％の人が解決できていない事実が分かりました。
「その他」には、県や市の消費者センターに相談して解決したという意見がありました。
またトラブルの有無について年代別に見てみると、トラブルになったことが「ある」と回答した人の割合は50歳代が２割強と最も高くなっています。



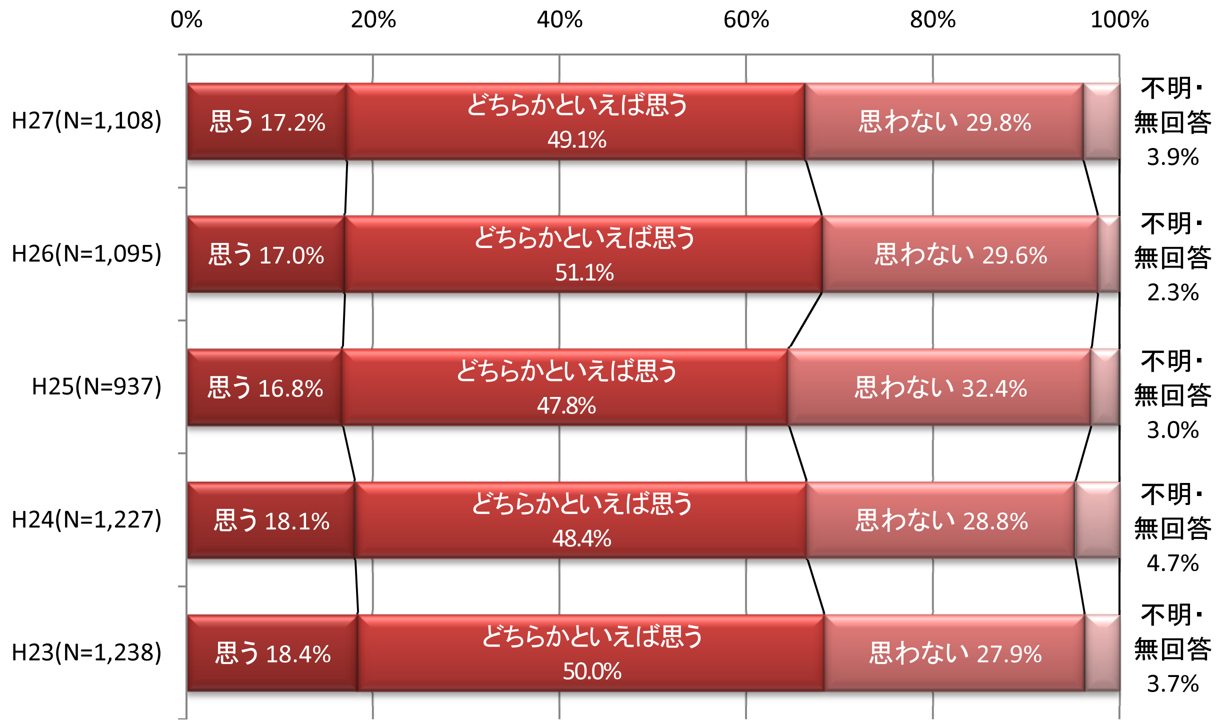


問26 あなたは、米原市の水道水はおいしいと思いますか。＜○は１つ＞

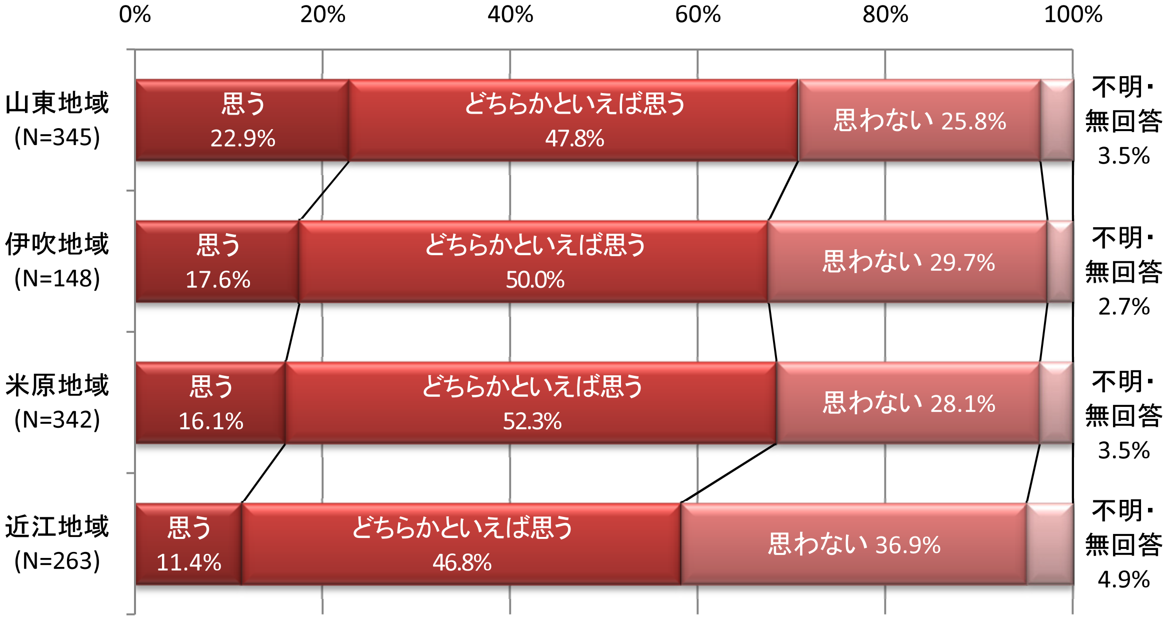
米原市の水道水はおいしいと思うかについて見てみると、「思う」が17.2%、「どちらかといえば思う」が49.1%と、66.3%の市民がおいしいと思っています。

経年変化で見てみると、水道水をおいしいと「思わない」市民は、平成25年度をピークに減少傾向にありますが、今年度は前年度と比べ0.2ポイント上昇しています。

また、地域別構成比でみると、山東地域で「思う」人が最も多く「どちらかといえば思う」と合わせて70.7%の人がおいしいと感じています。一方、近江地域では「思う」が11.4%にとどまっています。



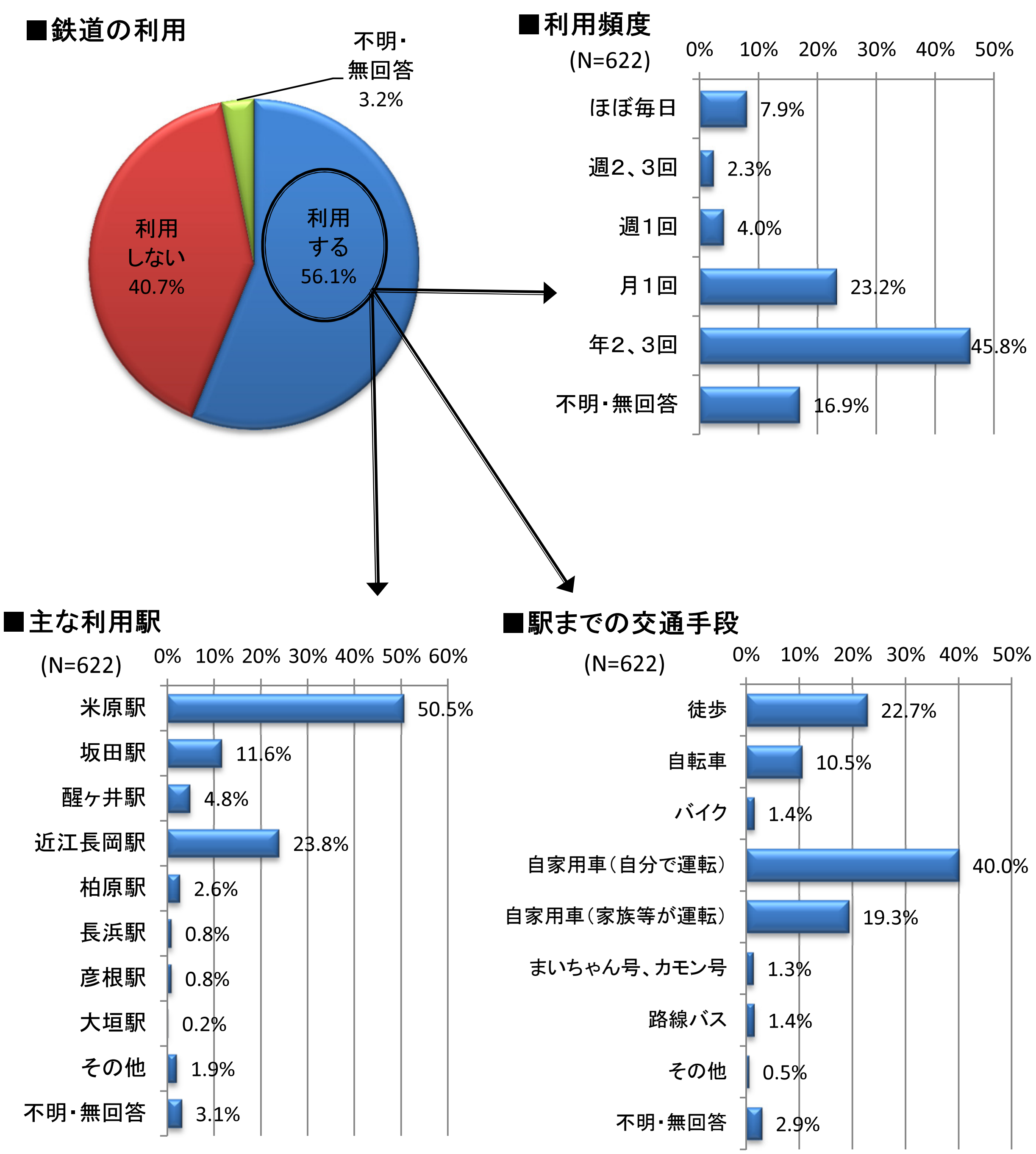
地域別構成比



問27 あなたは、移動の際に鉄道を利用されますか。またどの程度利用されますか。
＜○はそれぞれ１つずつ＞

付問１　【問27で「利用する」と答えられた方】あなたが利用する駅名と、その駅までの主な交通手段についてお答えください＜○は１つ＞

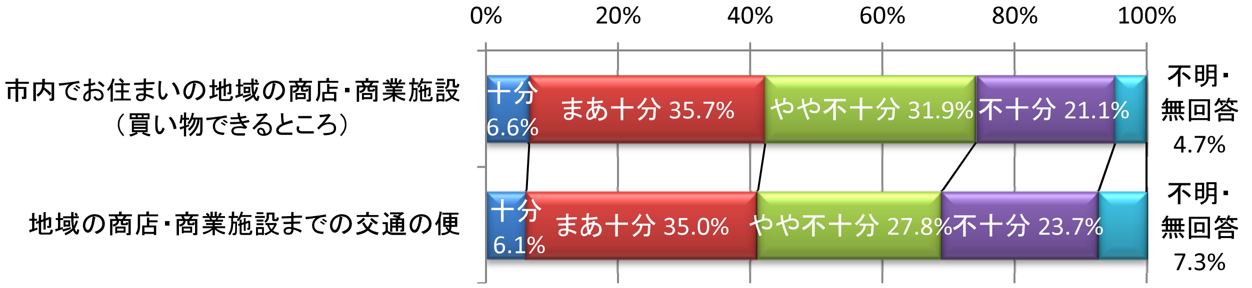
鉄道による移動については、56.1％の市民が鉄道を利用しており、その利用頻度は「月に１回」や「年に２、３回」が全体の７割近くを占めています。
主な利用駅は「米原駅」が50.5％と最も多く、次いで「近江長岡駅」が23.8％となっています。駅までの交通手段については、半数以上の人が自家用車で移動していることが分かりました。それ以外の交通手段としては、徒歩が22.7％、自転車が10.5％となっています。



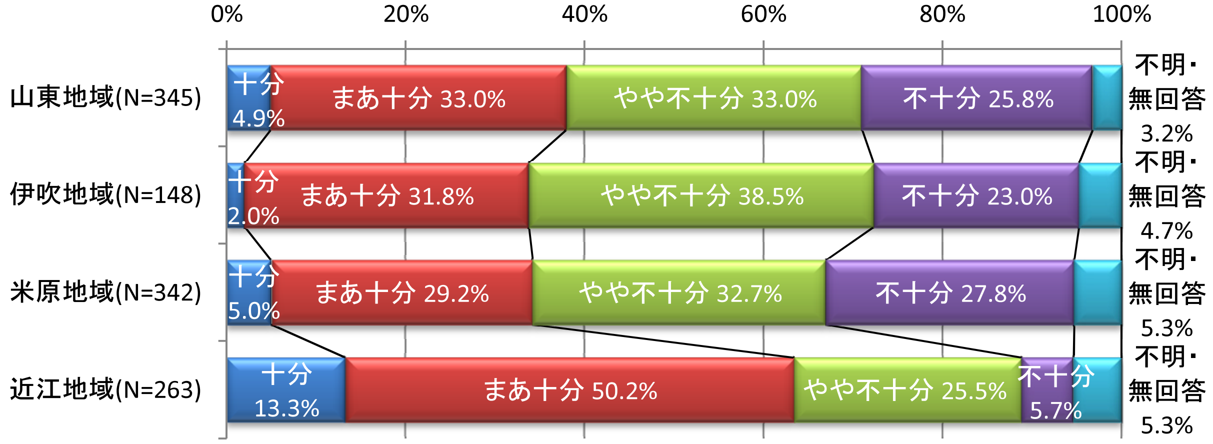
「５．地の利を活かしたにぎわいのまち」に関する設問です。

問28 あなたは、日頃の買物等について、次の項目は十分だと思いますか。＜○はそれぞれ１つずつ＞

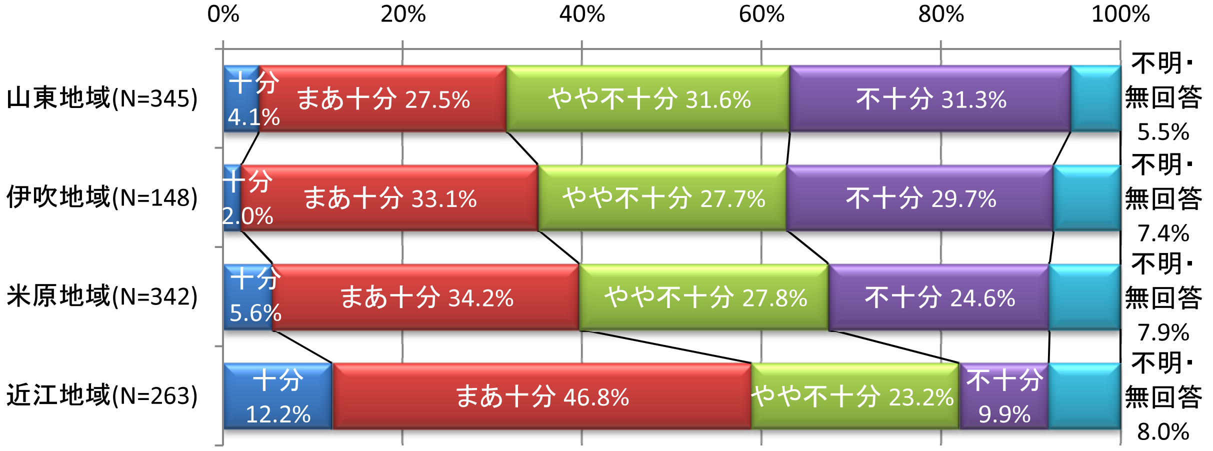
日常の買物の便については、どちらの項目も『十分』（「十分」と「まあ十分」の合計）と考えている人は42.3%、『不十分』（「やや不十分」と「不十分」の合計）は53.0%となっています。
地域別で見ると、「市内でお住まいの地域の商店・商業施設（買い物できるところ）」については、近江地域で『十分』が高くなっていますが、他の地域は『不十分』のほうが高くなっています。「地域の商店・商業施設までの交通の便」についても、同様に近江地域以外では『不十分』と考える人の割合のほうが高くなっています。



■市内でお住まい地域の商店・商業施設（買い物できるところ）



■地域の商店・商業施設までの交通の便

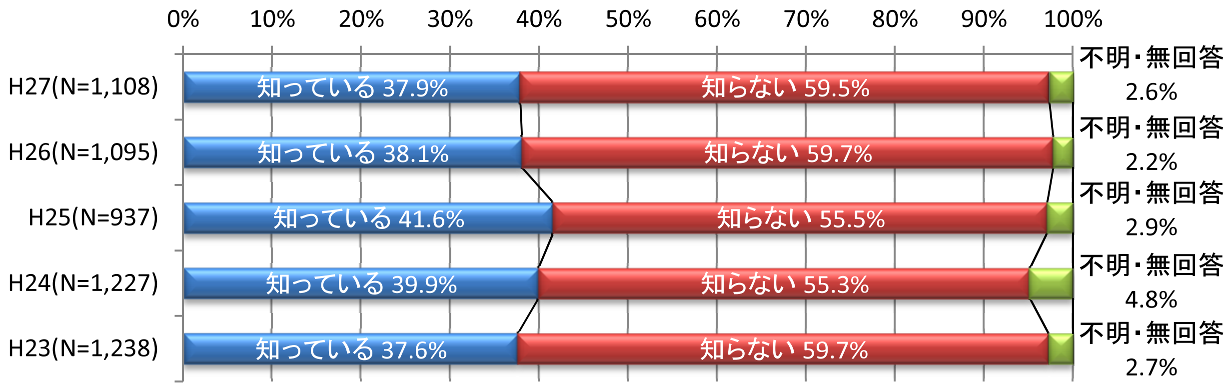


問29 あなたは、「水源の里まいばら元気みらい条例」で市全域を「水源の里」としていることをご存じですか。<○は１つ>

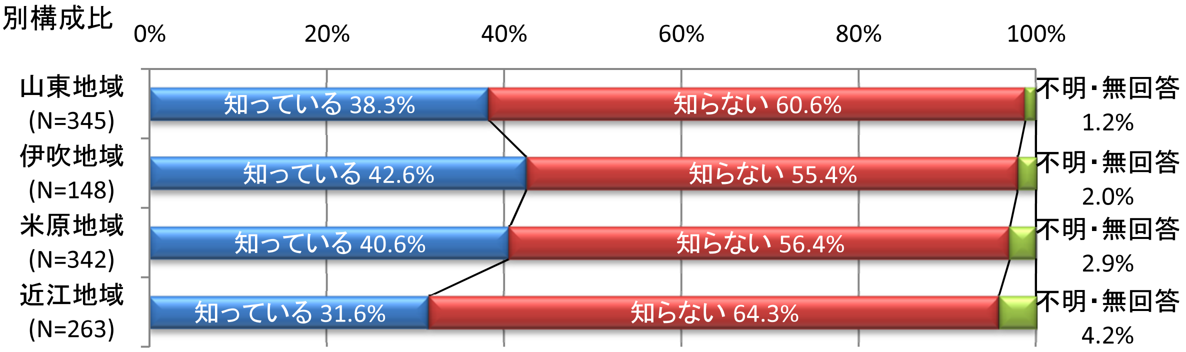
「水源の里まいばら元気みらい条例」で市全域を「水源の里」としていることの認知度について見てみると、「知っている」は37.9%であり、昨年度調査に比べると0.2ポイント減となっています。

経年変化で見てみると、「知っている」が減少傾向にあります。

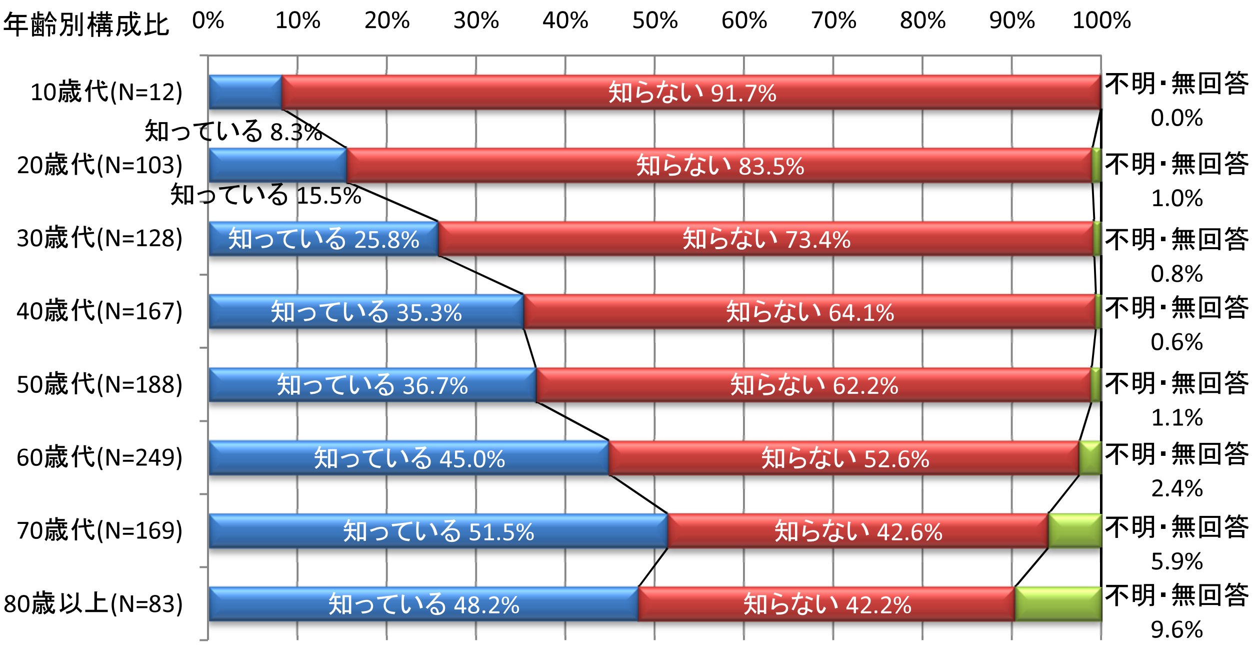
地域別構成比では伊吹地域が42.6%と最も認知度が高く、年齢別構成比では60歳代以上の認知度は５割前後であるのに対し、50歳代では３割台であり、年齢が下がるにつれて認知度が下がる傾向にあります。



地域別構成比

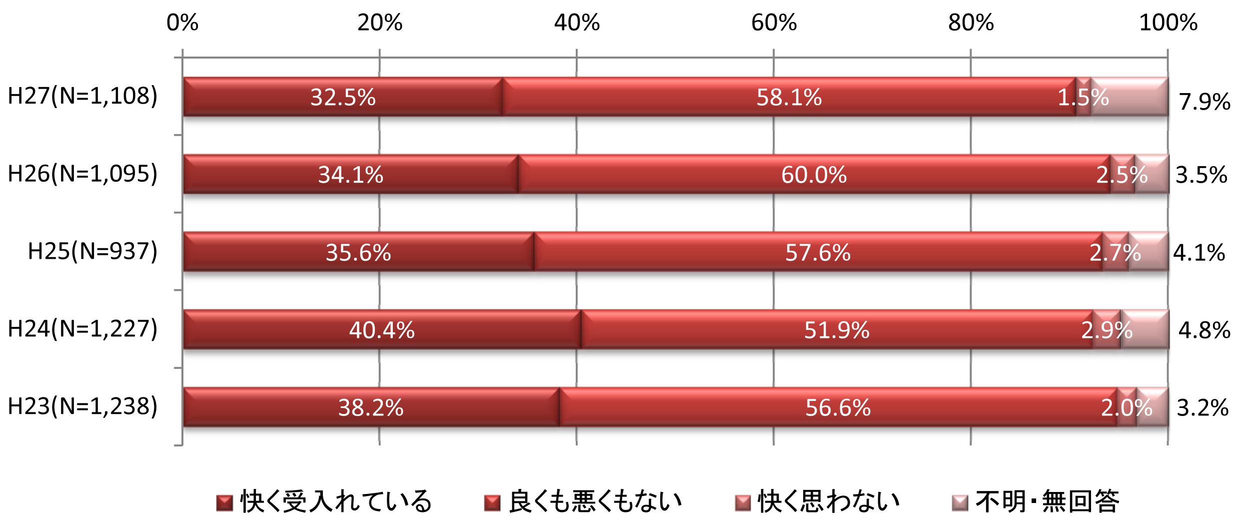


年齢別構成比



問30 あなたは、米原市を訪れる観光客などお客さんを快く受入れていますか。＜○は１つ＞

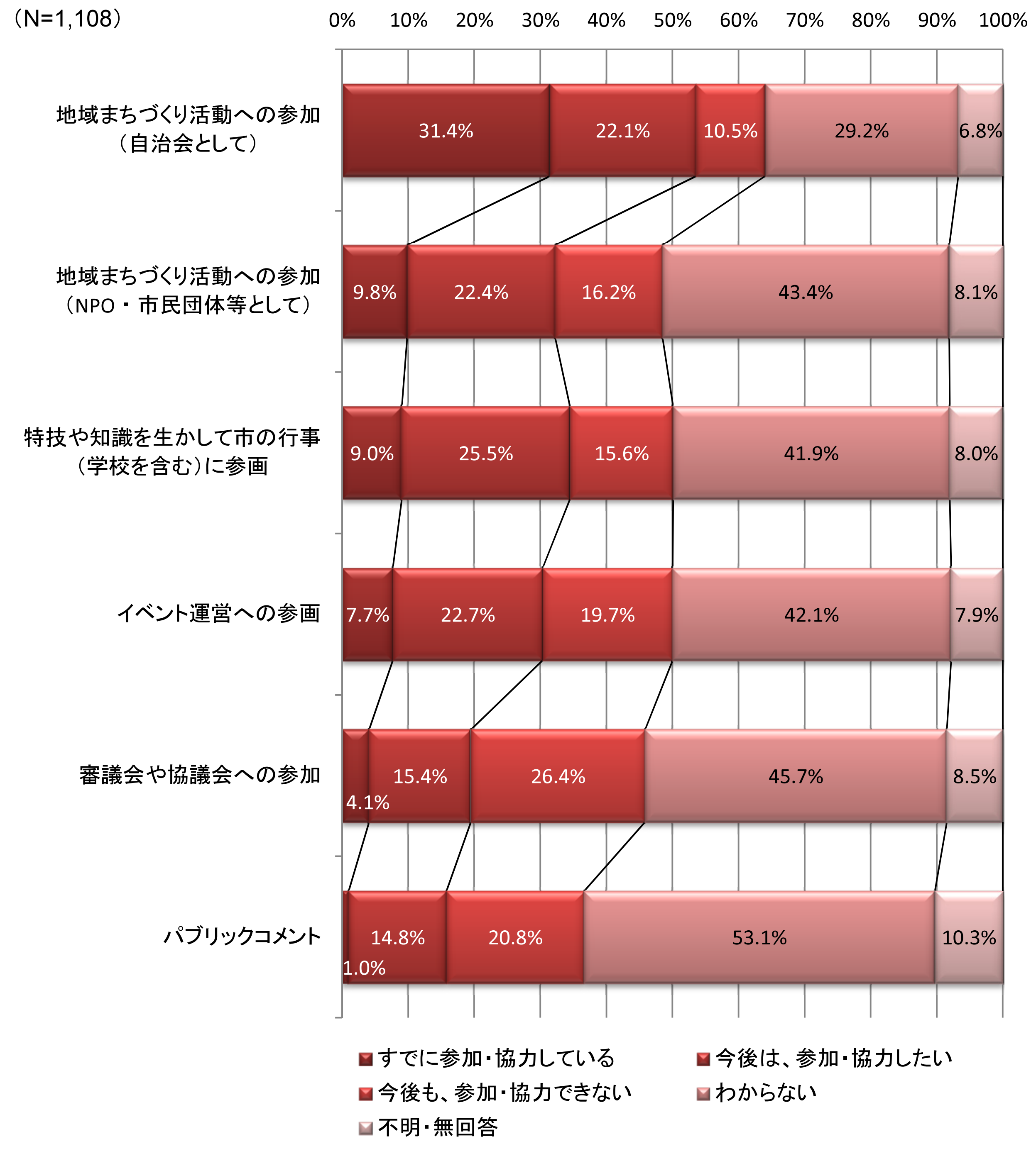
　米原市を訪れる観光客などのお客さんを快く受入れているかについて見てみると、「良くも悪くもない」が58.1％と半数以上を占めています。一方、「快く受入れている」が32.5％と昨年度から1.6ポイント減となっており、観光客などの受入れ意識を高めることが必要となっています。



市民主権による都市経営（協働のまちづくり推進）についてお伺いします。

問31 あなたは、市民と行政が協力して行う取組について、これまでに参加・協力したことがありますか。また、参加・協力したことがない方は、今後のお考えについてお答えください。＜○はそれぞれ１つずつ＞

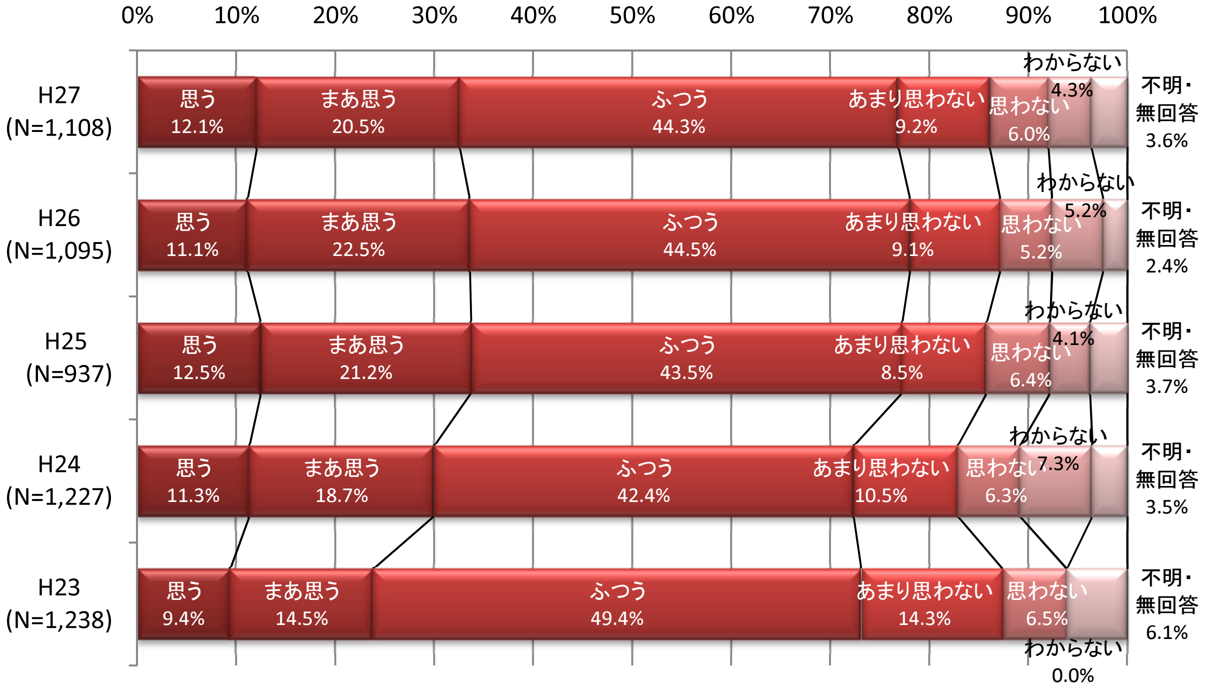
市民と行政が協力して行う取組についての参加・協力状況について見てみると、「わからない」としている回答が多い中で、「地域まちづくり活動への参加（自治会として）」では、「すでに参加・協力している」が31.4%、「今後は、参加・協力したい」が22.1%と、５割以上の市民が取組に対して前向きな回答をしています。



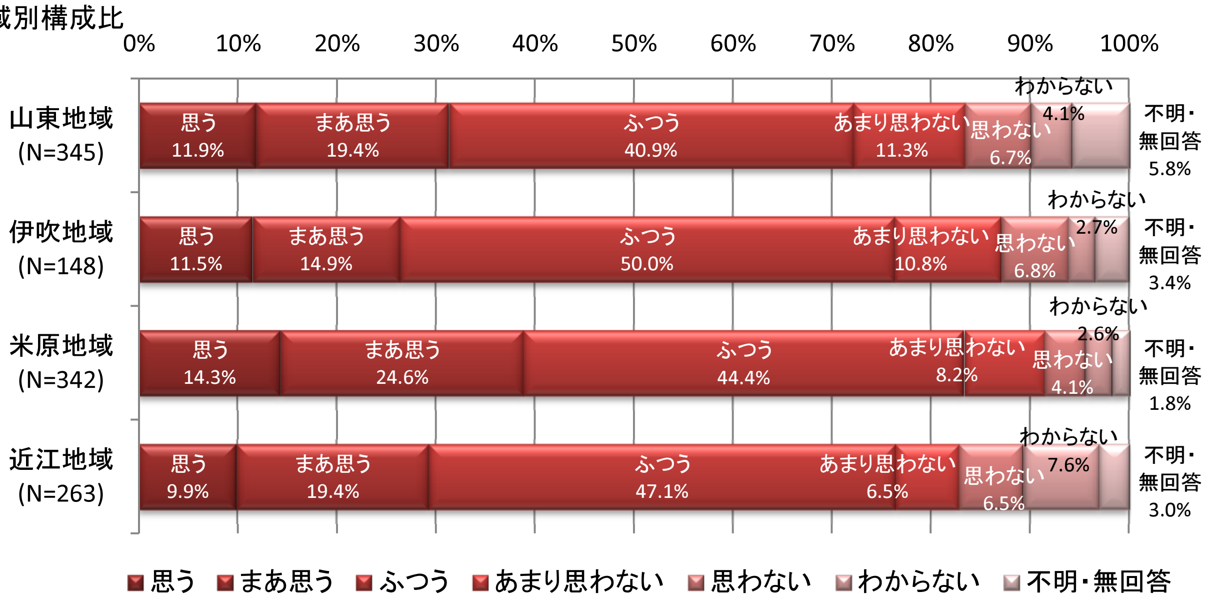
次代に引き継ぐための都市経営（行財政改革の推進）についてお伺いします。

問32 あなたは、市役所職員の応対はよいと思いますか。＜○は１つ＞

市役所職員の対応の印象については、「ふつう」が44.3％と最も高くなっています。
経年変化で見てみると、よいと「思う」、「まあ思う」市民は平成25年以降３割強程度で推移しており、「あまり思わない」、「思わない」市民は平成24年以降１割半程度で推移しています。
また地域別構成比では、米原地域で「思う」、「まあ思う」の合計ポイントが比較的高くなっています。また、山東地域では他地域よりも「ふつう」が低く「あまり思わない」、「思わない」の合計ポイントが若干高くなっています。

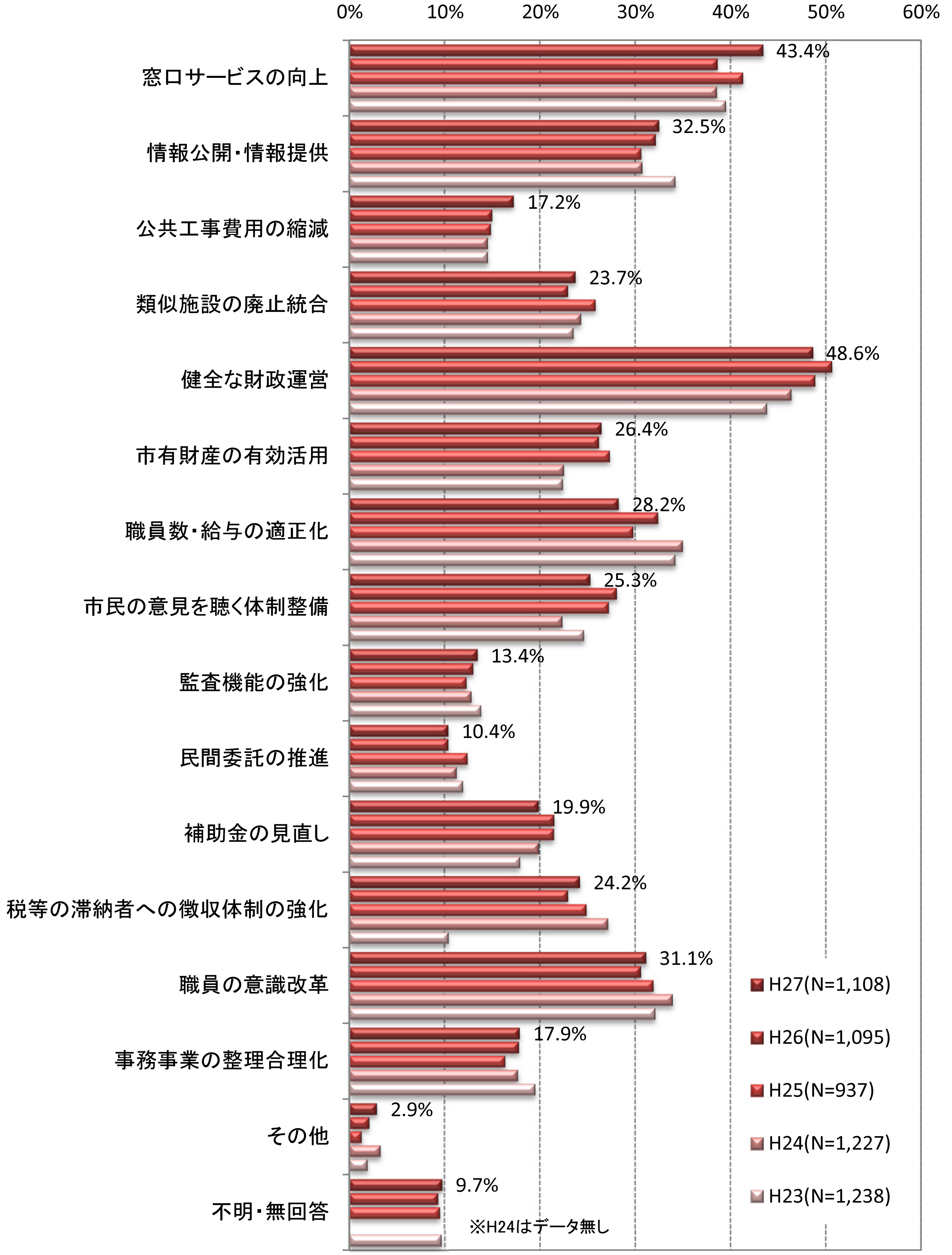


地域別構成比



問33 あなたは、行財政改革を推進する上で、何に重点をおいて実施するべきとお考えですか。＜あてはまるものすべてに○＞

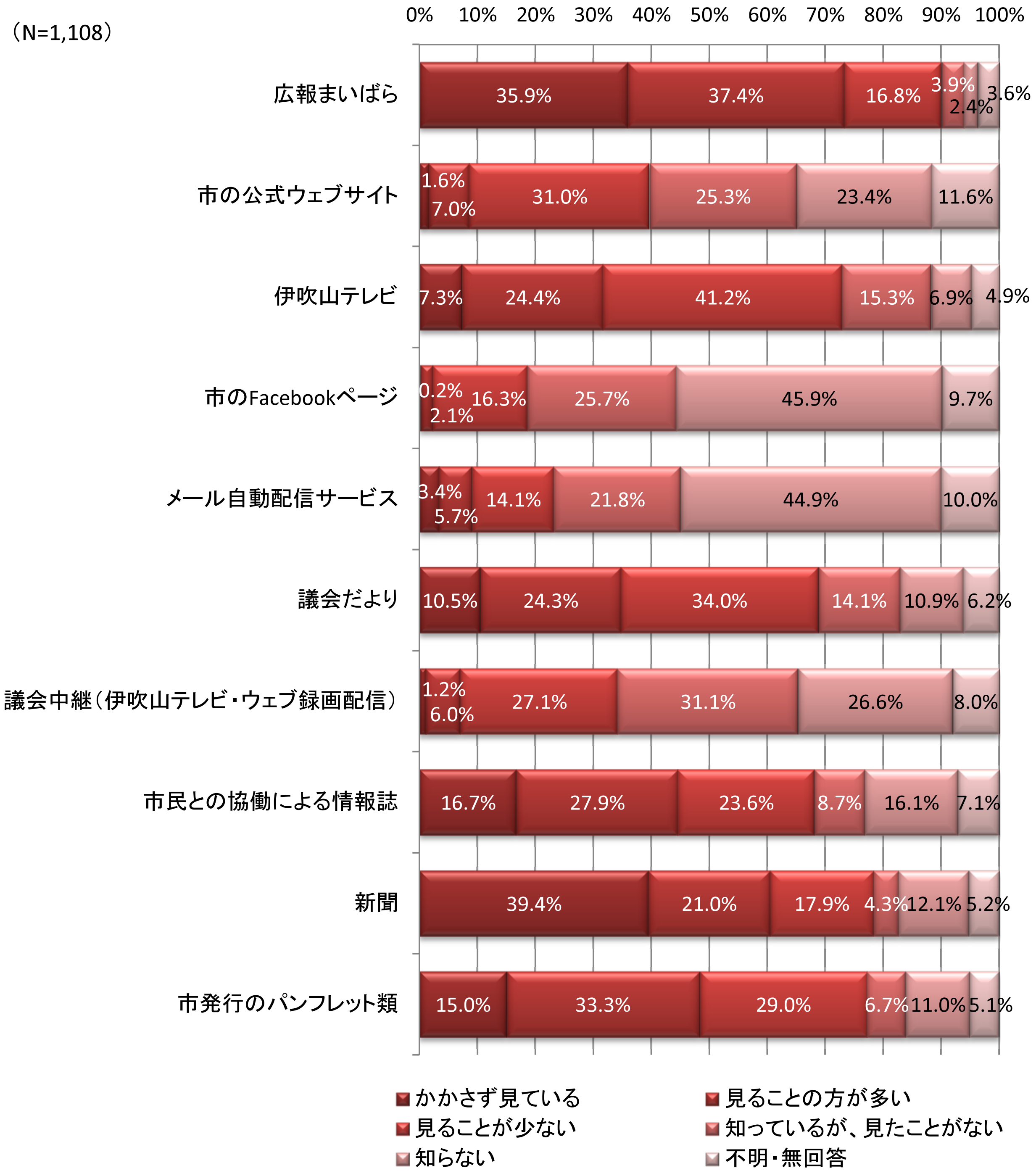
行財政改革を推進する上で、何に重点をおいて実施するべきかについては、「健全な財政運営」が48.6％と最も高くなっています。次いで「窓口サービスの向上」43.4％、「情報公開・情報提供」32.5％、「職員の意識改革」31.1％の順となっています。
また経年変化で見てみると、「健全な財政運営」を望む市民の声が一番多いことが分かります。



顔の見える都市経営（情報の共有）についてお伺いします。

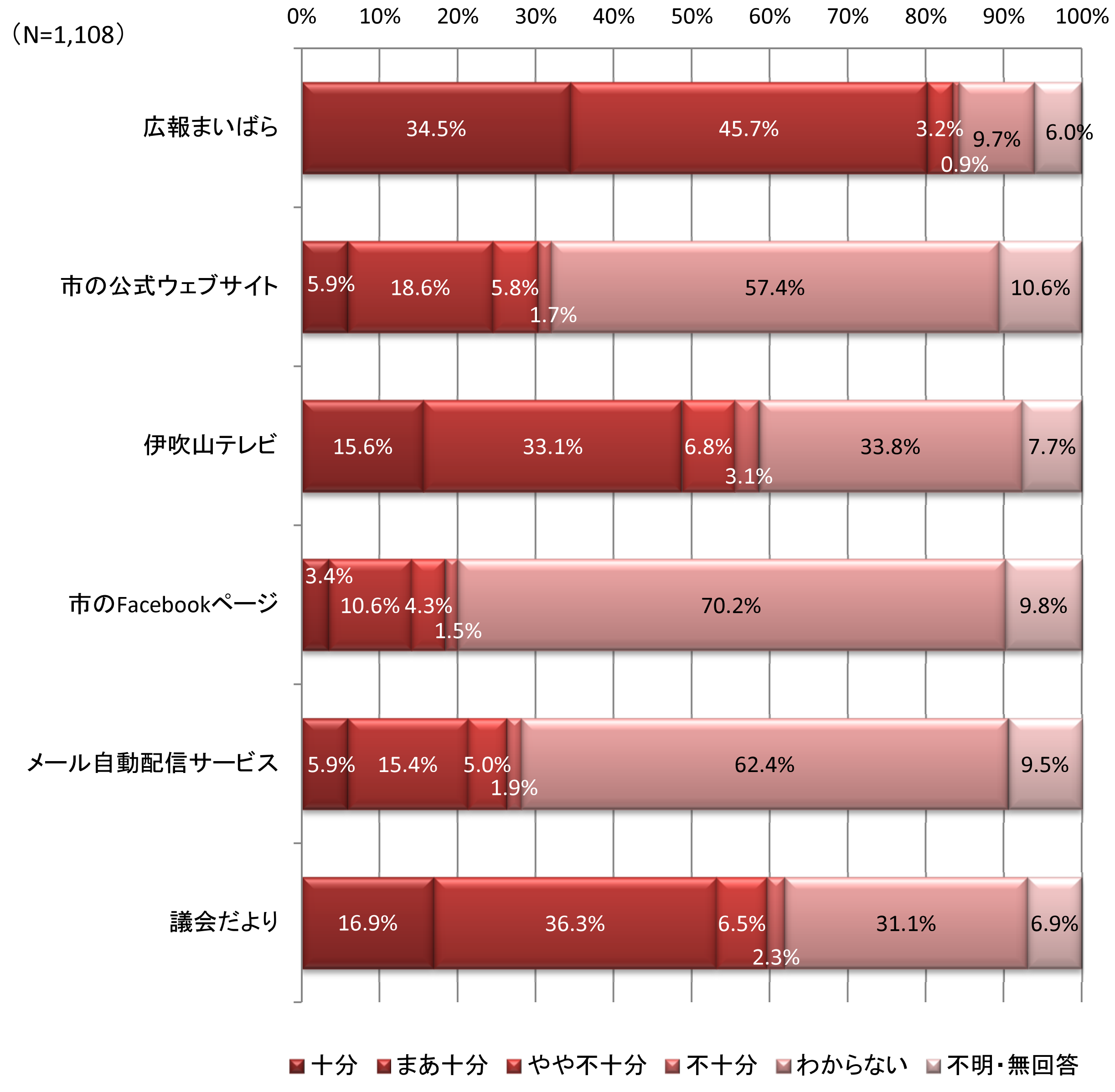
問34 あなたは、市が発信している次の情報を、どの程度ご覧になりますか。1～10のそれぞれの項目についてお答えください。
<○はそれぞれ１つずつ>

市が発信している情報を、どのような頻度で得ているかについて見てみると、「かかさず見ている」が最も多いのは「広報まいばら」で35.9％となっています。
一方で、「市のFacebookページ」、「メール自動配信サービス」については、「知らない」が４割台と、情報源として十分な認知を得られていない結果となっています。



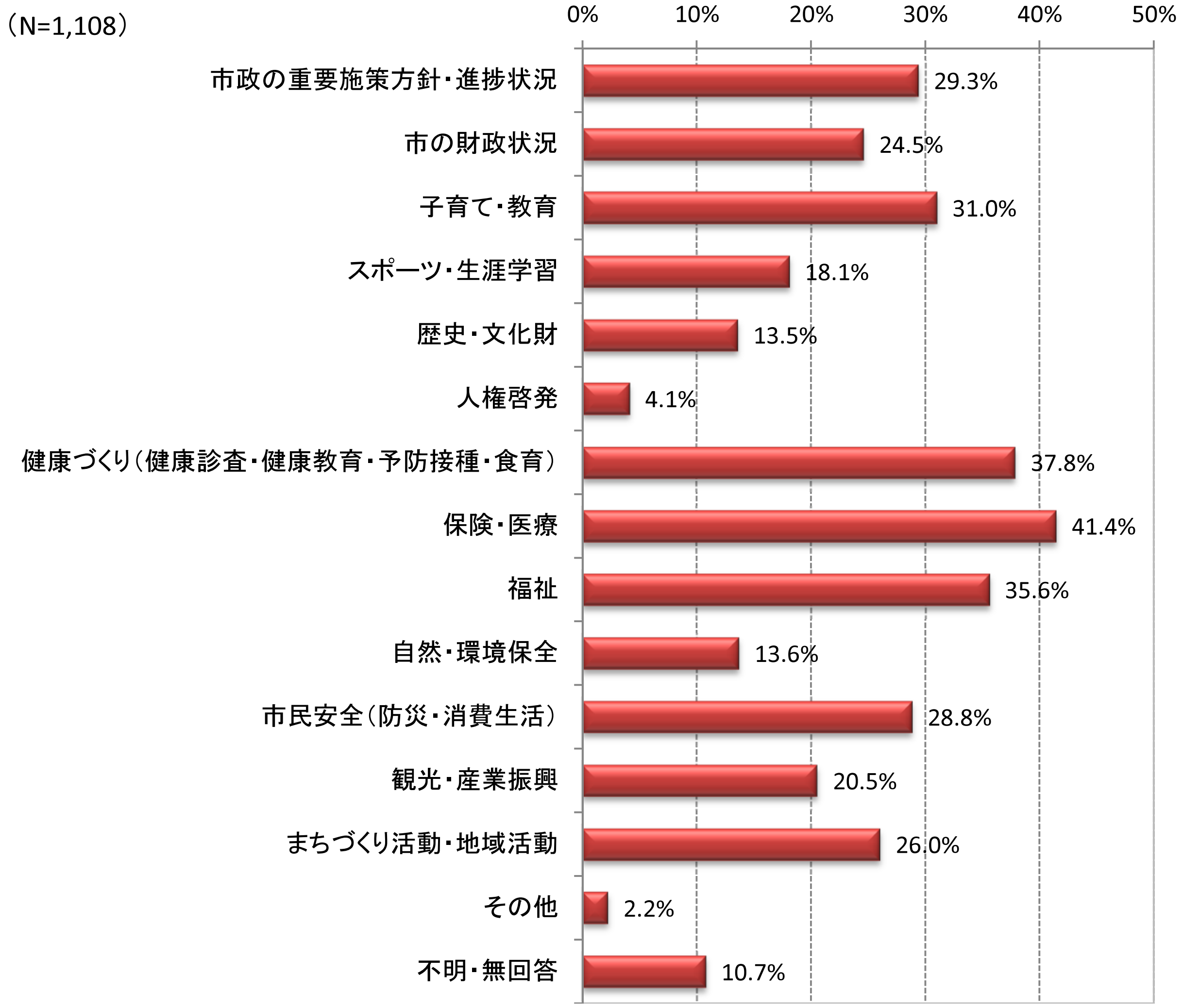
問35 あなたは、次の市政情報媒体について、市からの発信頻度は適当であると思いますか。1～6のそれぞれの項目についてお答えください。
<〇はそれぞれ１つずつ>

各市政情報媒体に関する市からの情報発信頻度の十分度を見てみると、「広報まいばら」については、「十分」と「まあ十分」の合計が８割程度と最も高くなっています。「伊吹山テレビ」と「議会だより」は、「十分」と「まあ十分」が５割程度となっています。
一方で、「市のFacebookページ」、「メール自動配信サービス」、「市の公式ウェブサイト」については、「わからない」が半数以上を占め、問34での認知度の低さと関連した結果となっています。

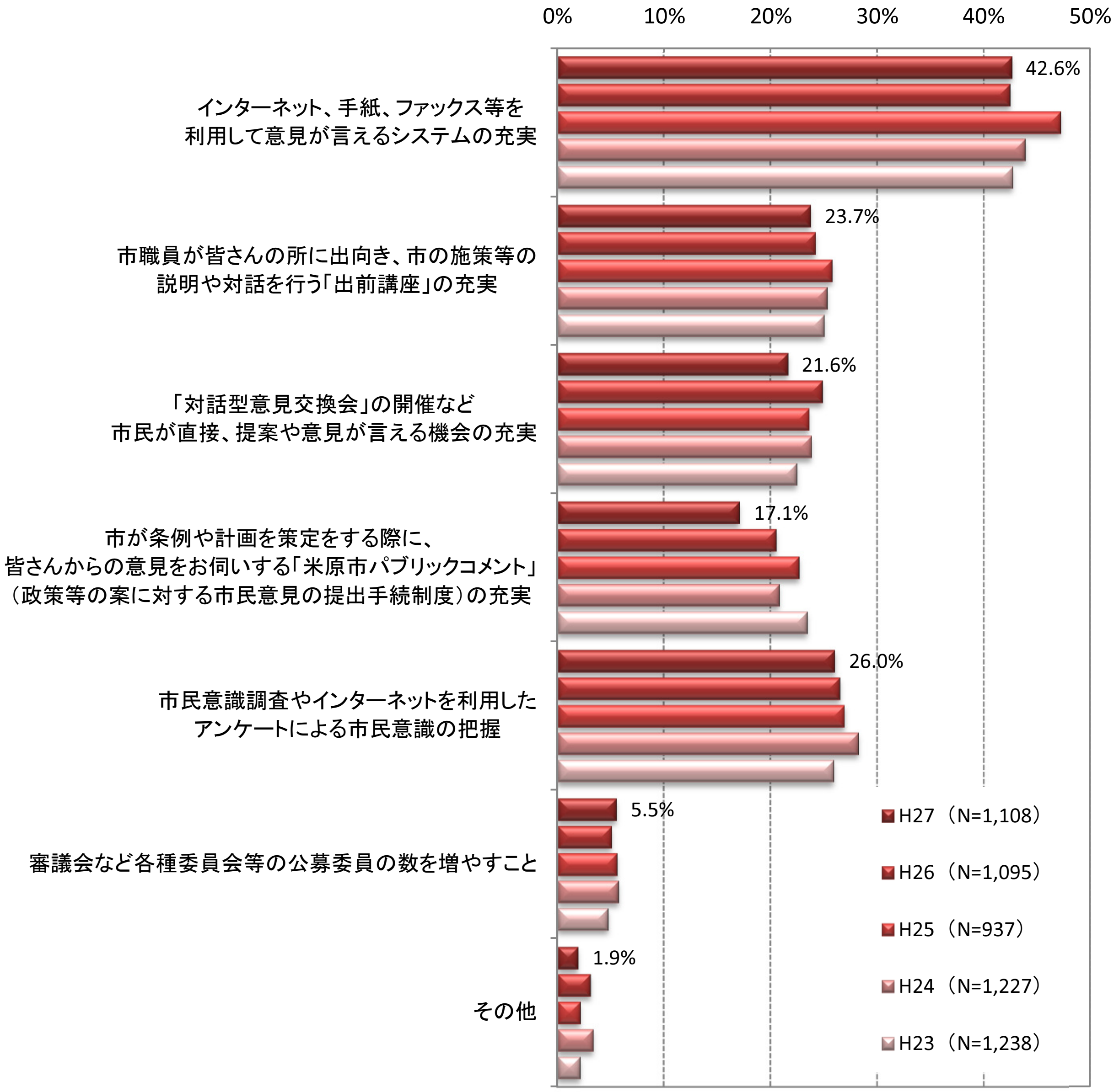


問36 あなたがもっと知りたい市政情報はなんですか。
＜あてはまるものすべてに〇＞

知りたい市政情報については、「保険・医療」が41.4%と最も高く、次いで「健康づくり（健康診査・健康教育・予防接種・食育）」が37.8%、「福祉」が35.6%となっています。



問37 市では、市民の皆さんから広くご意見を伺うことができる様々な取組を行っていますが、さらに意見を述べやすくするためには、どのようなことが必要だと思われますか。<あてはまるものすべてに○>

市民が市政に対する意見を述べやすくするために必要なことについて見てみると、「インターネット・手紙・ファックスなどを利用して意見が言えるシステムの充実」が42.6%と最も高く、次いで「市民意識調査やインターネットを使ったアンケート調査による市民意識の把握」が26.0%となっています。

経年変化で見てみると、低下しつつある項目が多く、一定の成果が上がっていると考えられます。